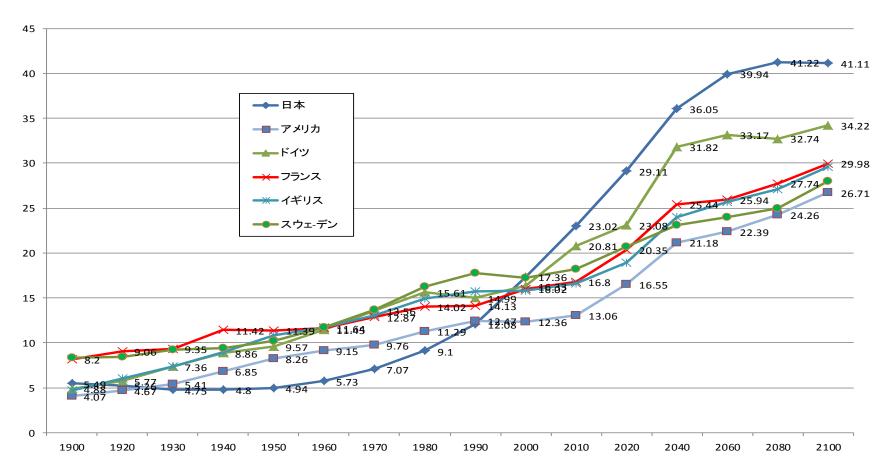
【高齢化への対応】資料集

今後の高齢化の進行 (世界に例を見ない高齢化を前に)	1
医療(誰もが虚弱高齢者になりうる)	15
介護 (右肩上がりの要介護認定者数)	30
住まい (高齢化による住まいの変化)	42
生活支援 (孤立化が進む熟年者)	58
介護予防 (人との関わりは介護予防)	62

主要国の65歳以上人口の割合(1900年~2100年)

日本の高齢化は、他国に比し、急激な勢いで進んでいる。日本の高齢化率は、2000年以降、いずれの国の高齢化率よりも高いものとなる。

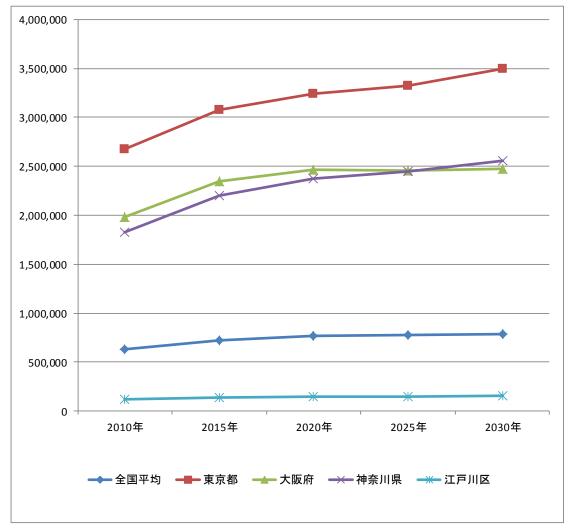


出典:国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集」(2014年版)

高齢化の推移

35 30 25 20 15 10 5 0 2012年 2020年 2025年 2030年 -国 ---東京都 ----江戸川区

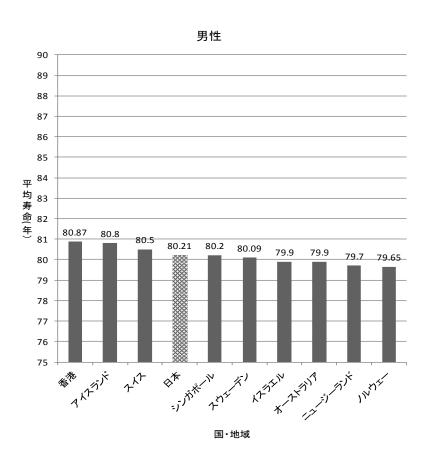
65歳以上人口の推移(全国平均、都、府、江戸川区)

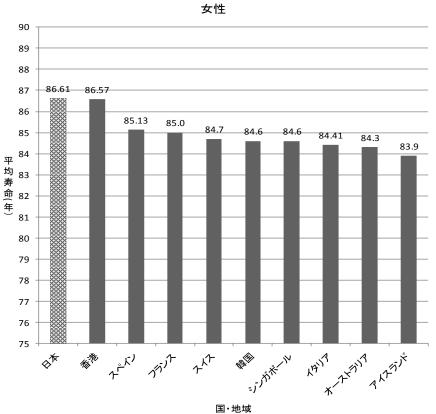


平成24年 国立社会保障・人口問題研究所

平均寿命の国際比較(上位10か国・地域)

日本人の平均寿命は、女性86.61歳で世界第1位、男性は80.21歳で世界第4位である。

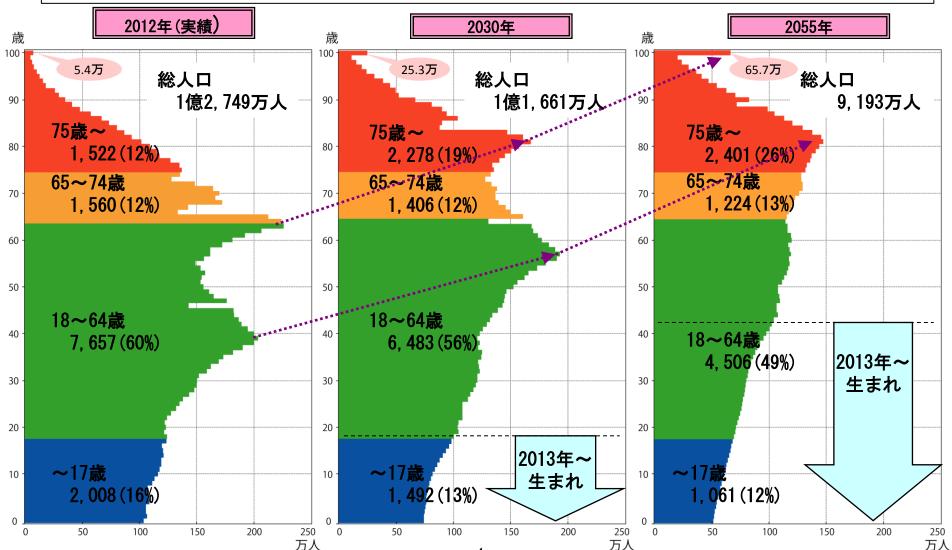




厚生労働省 平成25年簡易生命表の概況

人口ピラミッドの変化(全国 2012, 2030, 2055)

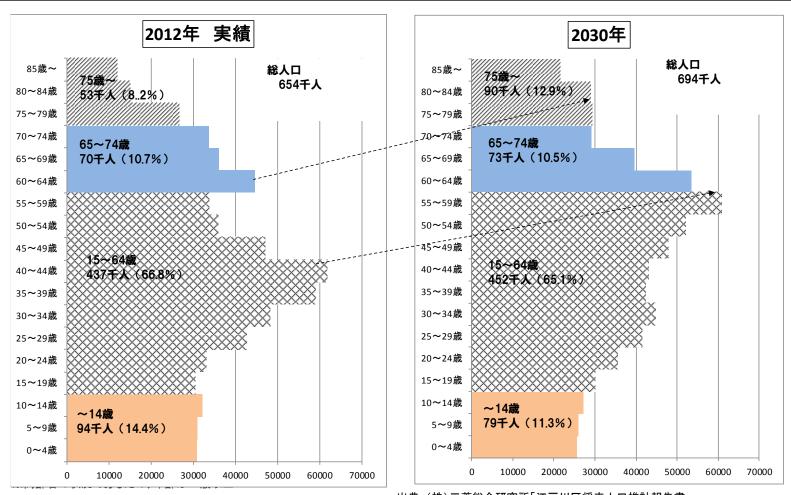
65歳以上の割合を示す高齢化率は、既に24%に到達。2030年30%、2055年40%と予想され、これほど高齢化が進展する国は世界中に存在しない。



万人 注:2012年は国勢調査結果。総人口には年齢不詳人口を含むため、年齢階級別人口の合計と一致しない。2030・2055年は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果

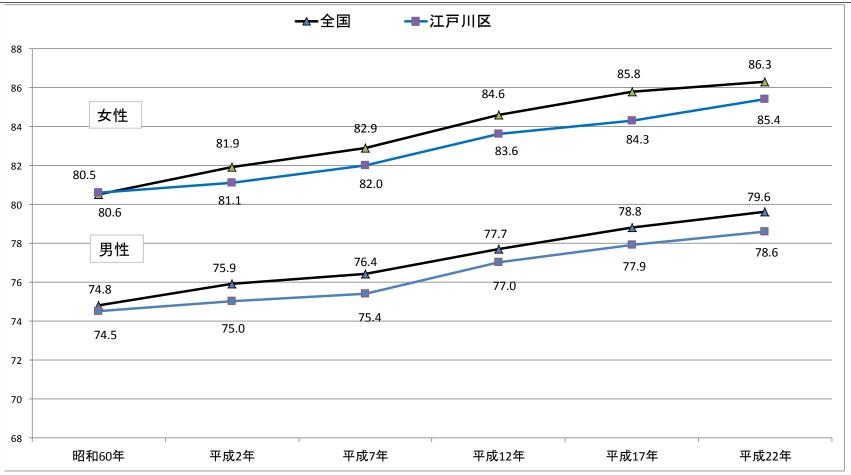
人口ピラミッドの変化(江戸川区 2012、2030)

2030年には、65歳以上の割合が総人口の2割を超える推計となっている。



平均寿命の推移(江戸川区・全国)

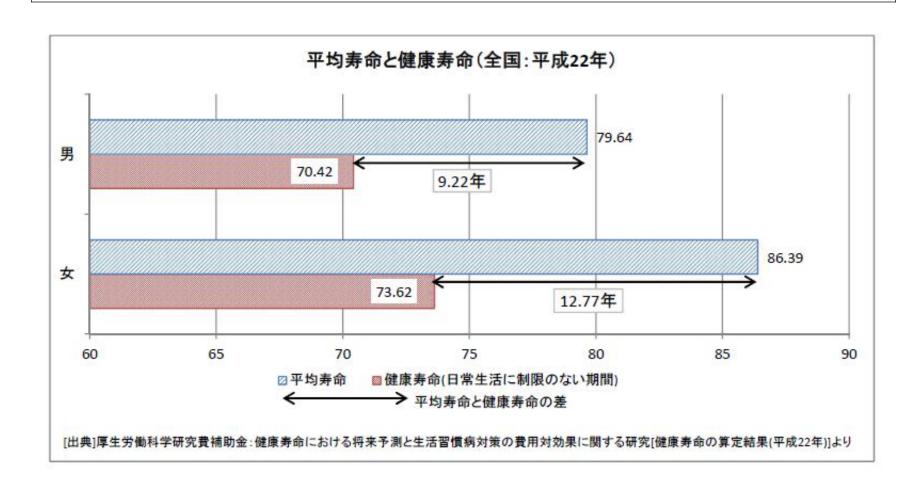
昭和60年から平成22年の変化をみると、全国では男性4.8歳 女性5.8歳、江戸川区では男性4.1歳、女性4.8歳の伸びとなっている。(日本人の平均寿命は男性80.21歳(世界第4位)、女性86.61歳(世界第1位)※2013年現在)



出典:厚生労働省 平成22年市区町村別生命表より

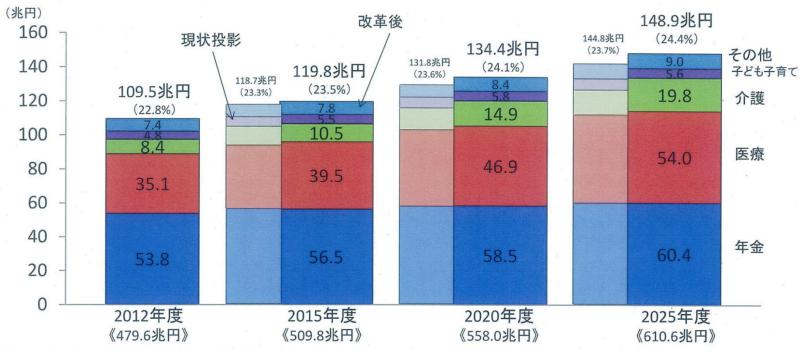
平均寿命と健康寿命(全国:平成22年)

団塊の世代が、2025年に健康寿命を終える。



社会保障費の変化

社会保障費は2012年度の109.5兆円(GDP比22.8%)から2025年度の148.9兆円(GDP比24.4%)へ増加。



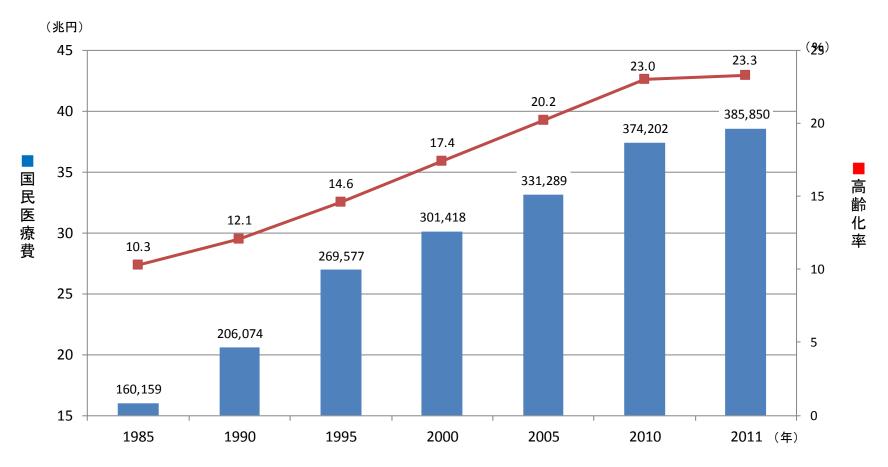
注1:「社会保障改革の具体策、工程及び費用試算」を踏まえ、充実と重点化・効率化の効果を反映している。 (ただし、「Ⅱ 医療介護等 ②保険者機能の強化を通じた医療・介護保険制度のセーフティネット機能の強化・給付の重点化、逆進性対策」 および「Ⅲ 年金」の効果は、反映していない。)

注2:上図の子ども・子育ては、新制度の実施等を前提に、保育所、幼稚園、延長保育、地域子育て支援拠点、一時預かり、子どものための現金給付、 育児休業給付、出産手当金、社会的養護、妊婦健診等を含めた計数である。

注3:()内は対GDP比である。《》内はGDP額である。

国民医療費と高齢化率の推移

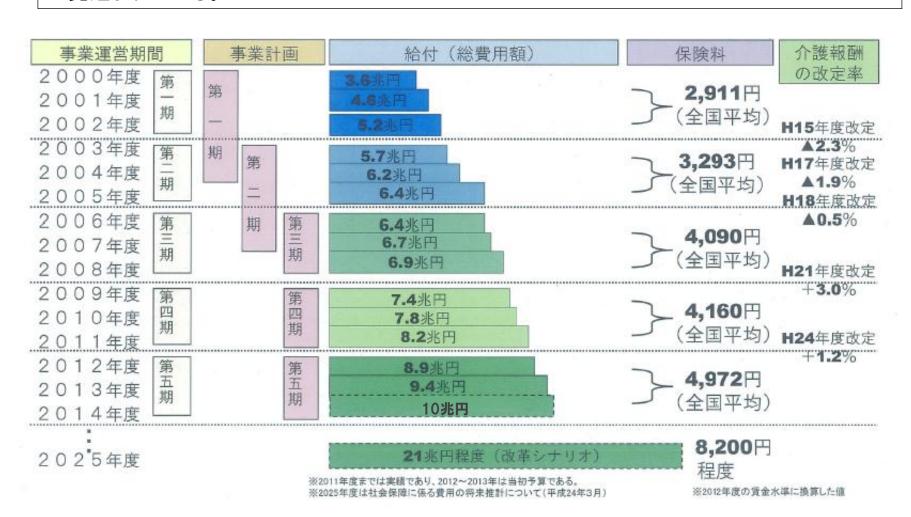
高齢化の進展に伴い、国民医療費は増加している。



平成23年度 国民医療費の現況(厚生労働省) 平成25年度 高齢化白書(内閣府)

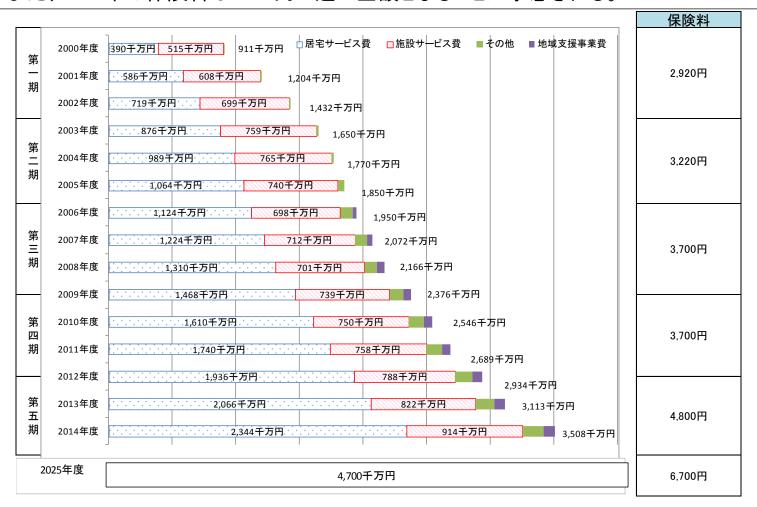
介護給付と保険料(全国)

高齢化の進展により、2025年には保険料が現在の5000円から8200円程度に上昇することが 見込まれている。



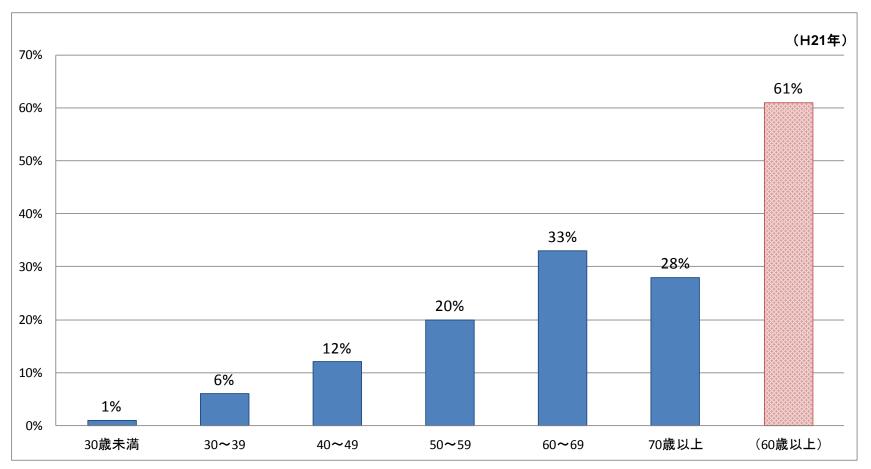
介護給付と保険料見込み(江戸川区)

2014年度の居宅サービス費(見込み)は、制度開始時に比べ、ほぼ6倍となっている。また、2025年の保険料は7000円に近い金額となることが予想される。



世帯主の世帯別 全体に占める実物資産保有割合

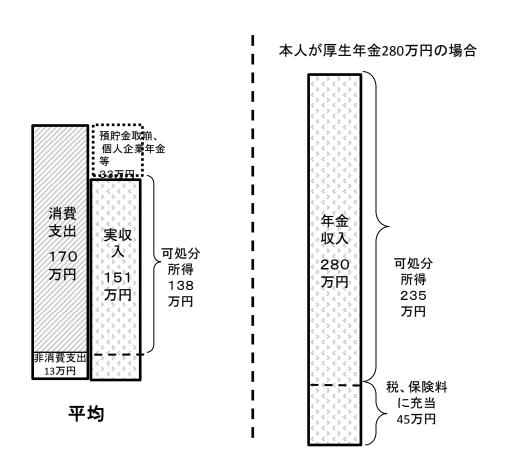
60歳代が全金融資産の33%、70歳代は28%を有している。金融資産の61%が60歳以上の高齢者で保有されていることになる。日本全体の個人金融資産は1,500兆円。



資料:全国消費実態調査(資産編)

65歳以上の無職単身高齢者世帯の収入と支出の状況

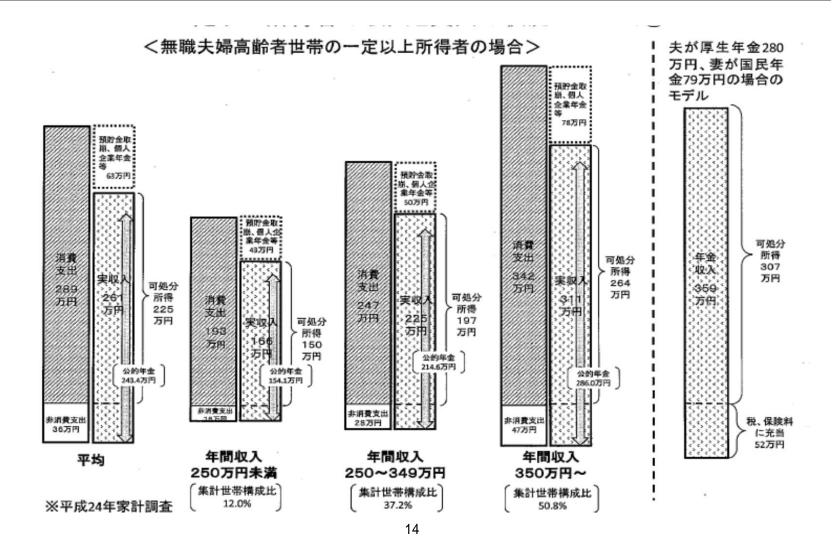
平均的な無職単身高齢者の消費は183万円であり、それに対する収入は、実収入151万円のほかに預貯金等の取崩が33万円となっている。



※平成24年家計調査

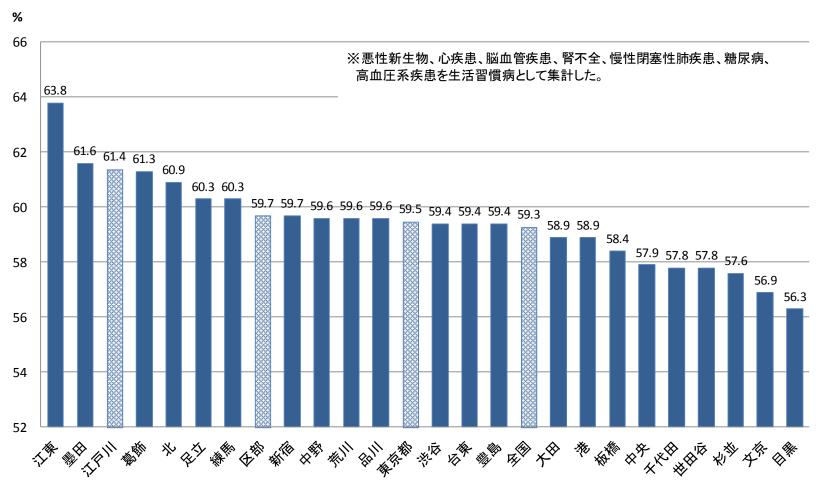
無職夫婦高齢者世帯の収入と支出の状況

無職夫婦高齢者世帯の平均的な支出325万円に対して、実収入は公的年金243.4万円を含んで261万円であり、預貯金等の取崩しは63万円である。



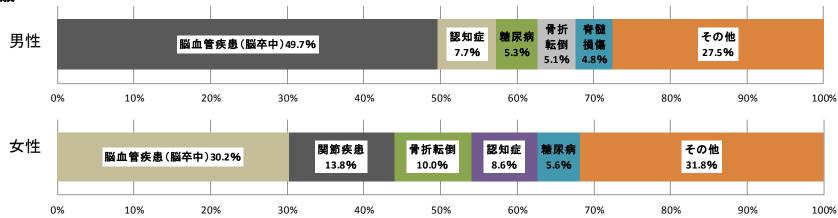
生活習慣病による死亡の割合(23区・都・国)

江戸川区における死亡のうち、生活習慣病※によるものが61.4%を占め、全国と比べて2.1ポイント、東京都と比べて1.9ポイント高くなっている。23区では江東区、墨田区に続く3番目に高い割合となっている。

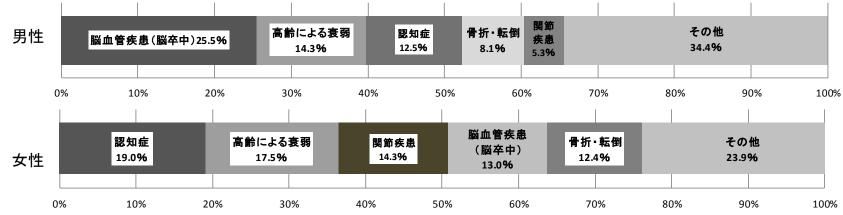


介護が必要となった主な原因 [平成22年国民生活基礎調査より]

65~74歳

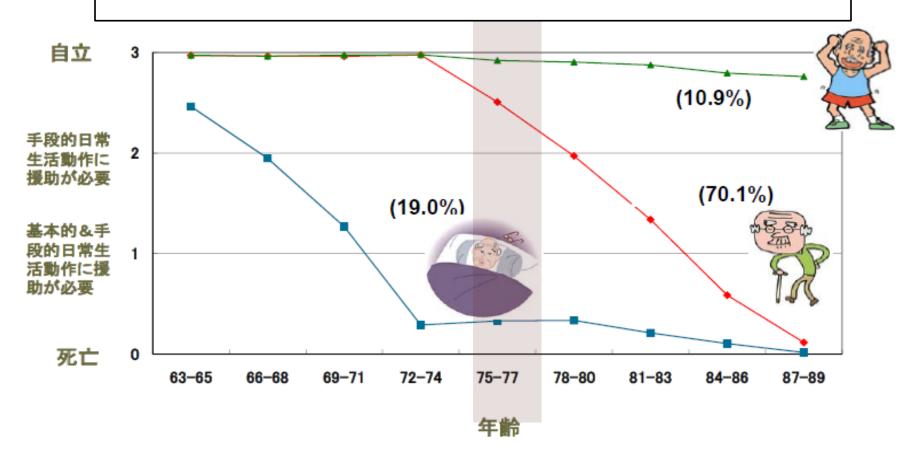


75歳以上



自立度の変化パターン(全国・男性)

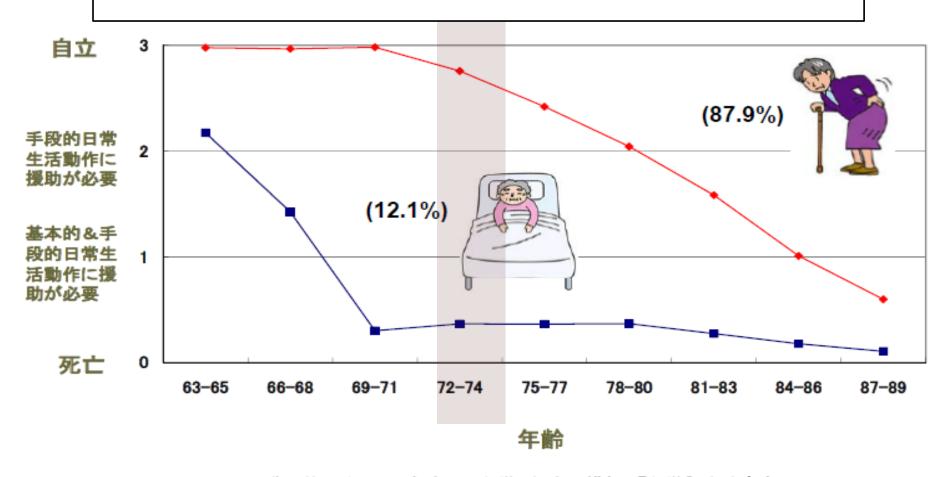
男性では、ほぼ完全自立が1割、急激に重い要介護になるのが2割、残りの7割が75歳ぐらいを境に徐々に自立度が低下していく。



出典) 秋山弘子 長寿時代の科学と社会の構想 『科学』岩波書店, 2010

自立度の変化パターン(全国・女性)

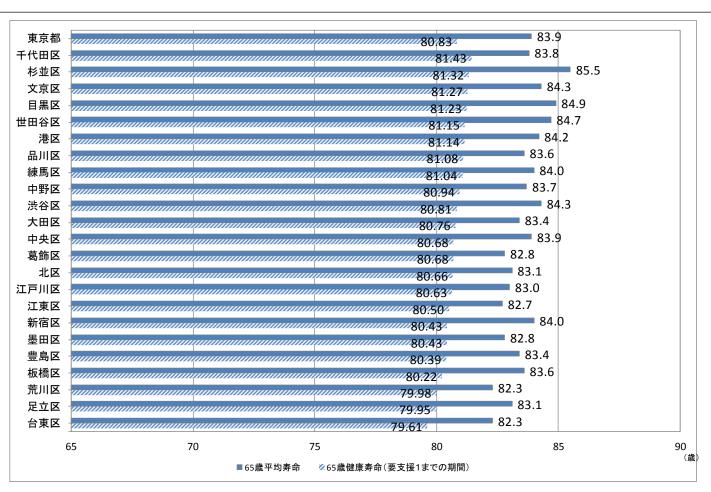
女性は、足腰が弱っていき、完全自立のパターンがほぼない。だが、男性と比べ急激に要介護度が重くなる人は少ない。



出典) 秋山弘子 長寿時代の科学と社会の構想 『科学』岩波書店, 2010

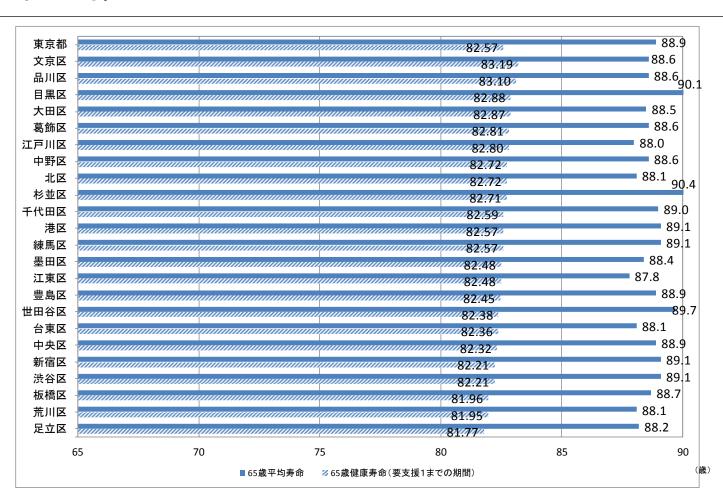
65歳平均寿命と65歳健康寿命(男性) (東京都:23区健康寿命順 平成22年)

江戸川区の男性は65歳平均寿命では18位、65歳健康寿命は15位である。要支援期間は短い順で6位となっている。



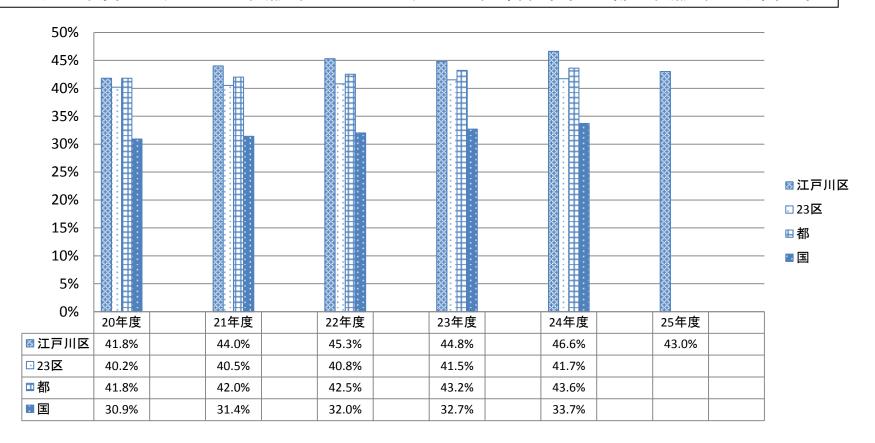
65歳平均寿命と65歳健康寿命(女性) (東京都:23区健康寿命順 平成22年)

江戸川区の女性は65歳平均寿命では22位、65歳健康寿命は6位である。要支援期間は短い順で1位となっている。



特定健康診査受診率の推移(23区・東京都・国)

平成24年度の江戸川区の受診率は46.6%で、23区中4番目。国や都の受診率より高い。

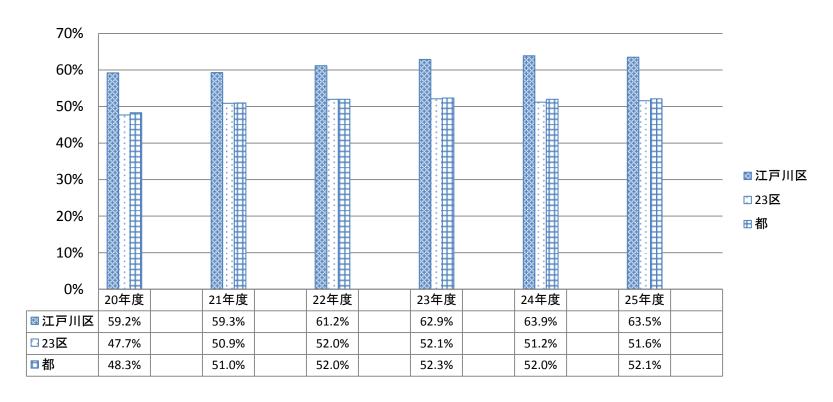


	20年	F 度	21年	F度	22年	F度	23 ⁴	F 度	24年度		
1位	杉並区	47.6%	葛 飾 区	46.7%	墨田区	48.0%	墨田区	47.8%	杉並区	48.5%	
2位	墨田区	46.1%	杉並区	46.1%	杉並区	47.6%	杉並区	47.8%	葛 飾 区	48.0%	
3位	目 黒 区	44.5%	江戸川区	44.0%	葛 飾 区	46.7%	葛 飾 区	45.9%	墨田区	48.0%	
4位	文 京 区	44.4%	文 京 区	43.8%	江戸川区	45.3%	板 橋 区	45.1%	江戸川区	46.6%	
5位	葛 飾 区	44.1%	千代田区	43.7%	目 黒 区	43.7%	江戸川区	44.8%	板橋区	46.0%	
11位	江戸川区	41.8%			21)I/ 0F		+= ====================================	<u> </u>	188	

※ 25年度の23区、都、国数値は未確定につき空欄

長寿健康診査受診率の推移(23区・東京都)

平成25年度の江戸川区の受診率は63.45%で、23区中2番目。都より11.4ポイント高い。



	2	0年度				21年	度			22年	度			23年	F 度			24年	度				25年度	
1位	江 東	丞 63	. 25%	葛	飾	区	63. 049	葛	飾	区	62.61%	葛	飾	区	63. 52%	葛	飾	区	64	l. 22%	葛	飾	区	64. 57%
2位	豊島	区 62	. 75%	江	東	X	61. 279	6江	戸川	区	61. 24%	江	戸川	区	62.89%	江	戸川	区	63	3. 91%	江	戸川	区	63.45%
3位	葛 飾	区 61	. 94%	墨	田	区	60.689	6江	東	区	60.94%	荒	Ш	X	60.54%	墨	田	区	61	. 21%	墨	田	区	61.95%
4位	墨田	区 60	. 16%	荒	Ш	区	59.869	&墨	田	区	60.45%	練	馬	区	60.34%	荒	Ш	区	60	. 80%	荒	Ш	区	60.46%
5位	江戸川	区 59	. 20%	刪	島	区	59. 479	能	Ш	区	59. 44%	墨	田	区	60.12%	練	馬	区	59	0.03%	練	馬	区	57.50%
		6位	Ĺ	江戸	三川	区	59. 339	6															-	

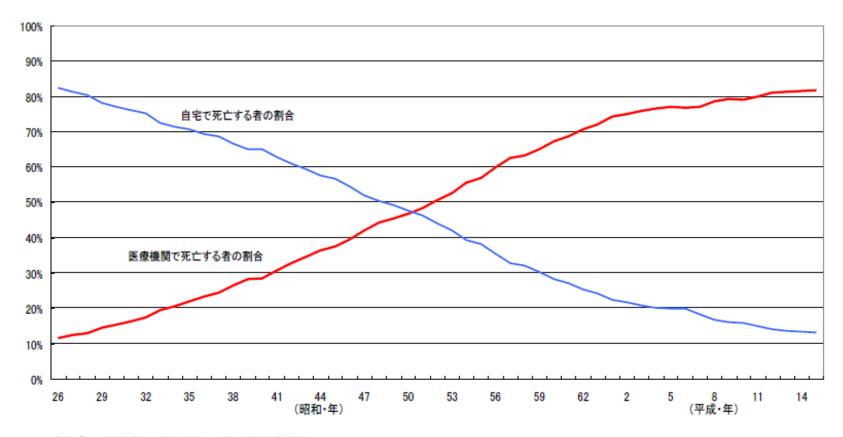
江戸川区がん検診受診者数と受診率の推移

平成21年度と比較して平成25年度は、受診者総数が9,250人の増、受診率は0.9ポイントの増となっている。

	21年度		22年原	芰	23年原	芰	24年原	芰	25年度		
胃がん	17,784人	(6.1%)	18,450人	(6.3%)	19,580人	(6.9%)	19,999人	(7.1%)	21,559人	(7.6%)	
肺がん	28,178人	(13.2%)	26,962人	(12.3%)	27,263人	(11.7%)	28,177人	(11.9%)	26,332人	(11.0%)	
大腸がん	12,020人	(5.0%)	12,879人	(5.3%)	17,289人	(7.5%)	19,368人	(8.2%)	20,259人	(8.5%)	
乳がん	23,684人	(13.3%)	23,841人	(13.2%)	23,801人	(14.2%)	23,402人	(13.9%)	23,902人	(14.3%)	
子宮頸がん	21,862人	(11.4%)	22,032人	(11.4%)	20,731人	(11.9%)	19,859人	(11.5%)	20,078人	(11.6%)	
前立腺がん	2,413人	(19.9%)	2,599人	(22.4%)	2,884人	(26.8%)	3,149人	(26.8%)	3,061人	(24.9%)	
計	105,941人	(9.4%)	106,763人	(9.4%)	111,548人	(10.2%)	113,954人	(10.3%)	115,191人	(10.3%)	

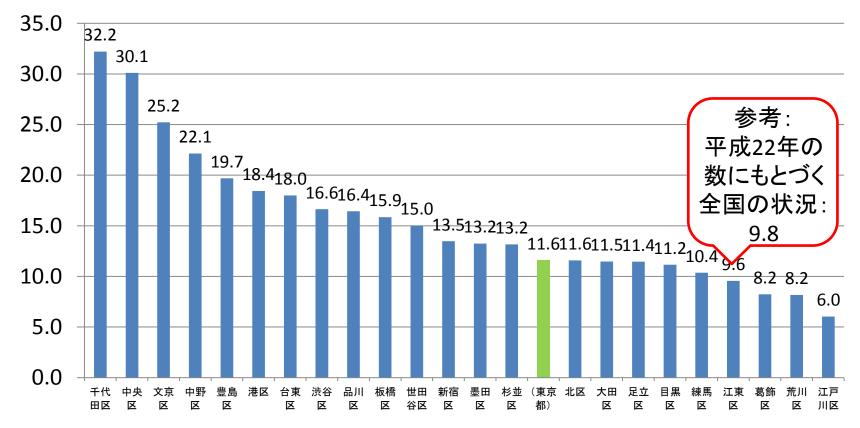
医療機関における死亡割合の年次推移(全国)

医療機関において死亡する者の割合は年々増加しており、昭和51年に自宅で死亡する者の割合を上回り、更に近年では8割を超える水準となっている。※病院、診療所、老人保健施設



資料:「人口動態統計」(厚生労働省大臣官房統計情報部)

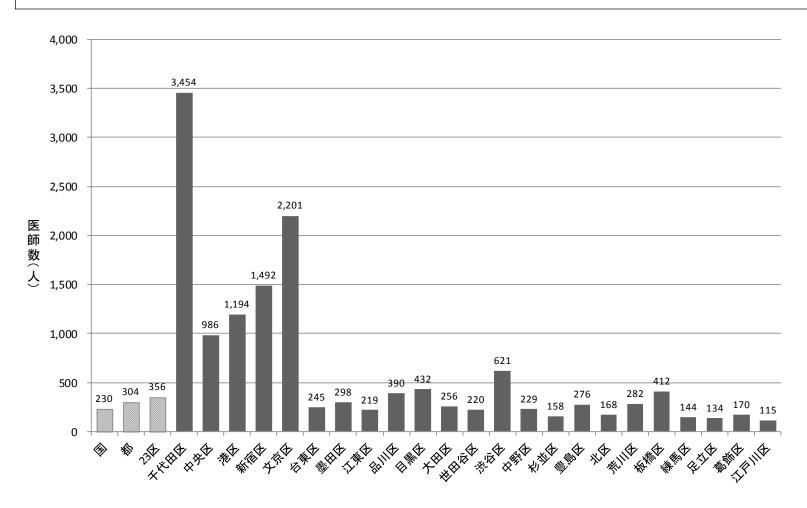
在宅療養支援診療所(1-3)の数(人口10万あたり)



診療報酬上の施設基準等の届出は関東信越厚生局東京事務所のリストによる。人口は東京都の住民基本台帳人口による。いずれも平成26年7月時点。

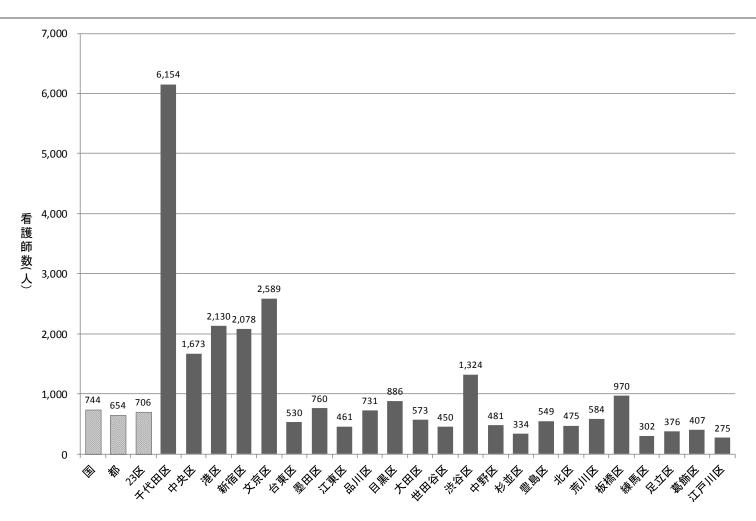
人口10万人あたりの医師数(23区・東京都・国)

人口10万人あたりの医師数は都心区で多く、江戸川区をはじめとする東部地域は少ない。



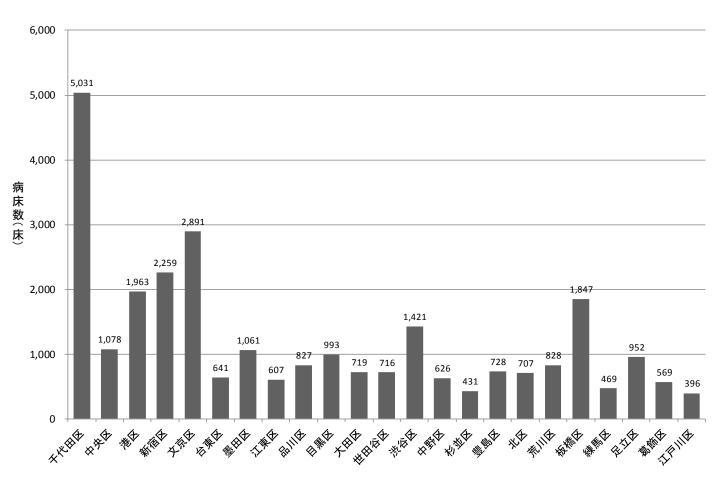
人口10万人あたりの看護師数(23区・東京都・国)

人口10万人あたりの看護師数は都心区で多く、江戸川区をはじめとする東部地域は少ない。



23区の病床数(人口10万人あたり)

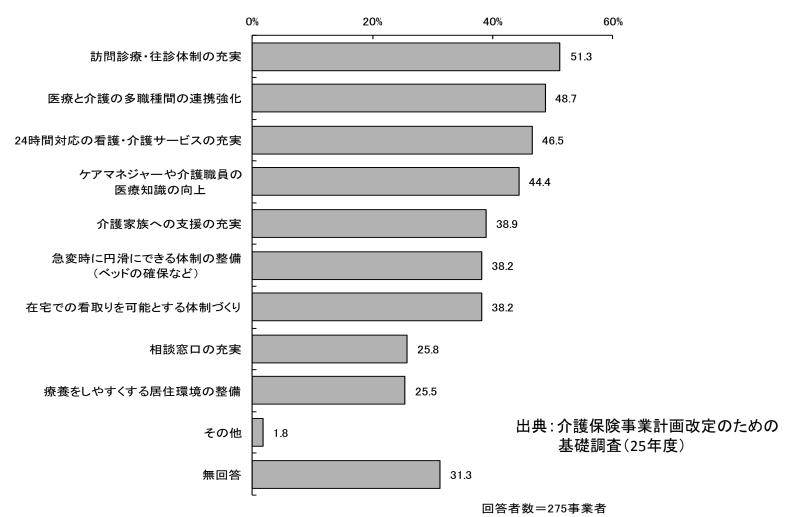
人口10万人あたりの病床数は大学病院等の規模の大きな病院が所在する区で多くなっている。



平成22年12月31日現在 福祉・衛生統計年報(東京都福祉保健局)

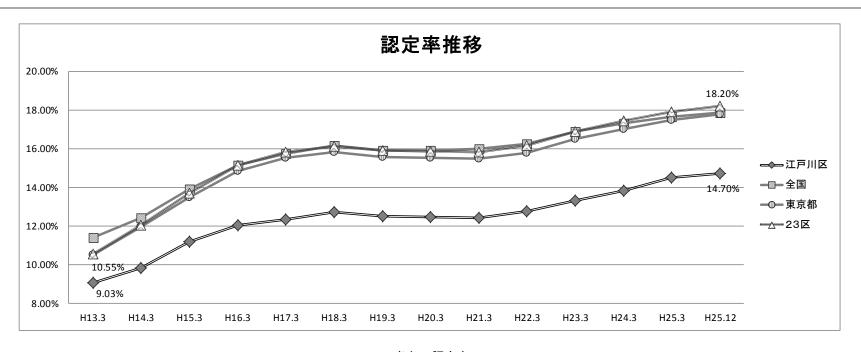
介護事業者が考える在宅療養を支えるために必要なこと

「訪問診療・往診体制の充実」51.3%が最も高く、次いで「医療と介護等の連携強化」48.7%となっている。



介護認定度別推移・増加率

江戸川区・23区・東京都・全国ともに同じようなカーブを描いている。13年3月は江戸川区と23区との差は1.52ポイントであったが、25年12月には3.5ポイントと大きく開いた。

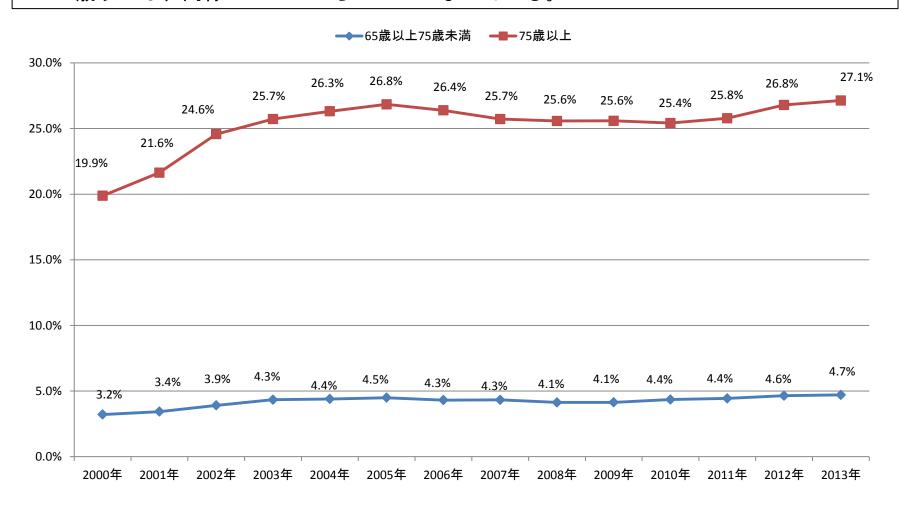


	<u> </u>													
	H13.3	H14.3	H15.3	H16.3	H17.3	H18.3	H19.3	H20.3	H21.3	H22.3	H23.3	H24.3	H25.3	H25.12
江戸川区	9.03%	9.83%	11.18%	12.00%	12.34%	12.69%	12.48%	12.45%	12.42%	12.74%	13.30%	13.79%	14.48%	14.70%
23区	10.55%	12.02%	13.66%	15.12%	15.81%	16.12%	15.89%	15.83%	15.80%	16.15%	16.87%	17.42%	17.91%	18.20%
東京都	10.49%	11.92%	13.47%	14.85%	15.49%	15.80%	15.54%	15.50%	15.47%	15.78%	16.49%	17.00%	17.48%	17.77%
全国	11.40%	12.42%	13.88%	15.12%	15.71%	16.13%	15.88%	15.91%	15.98%	16.25%	16.87%	17.29%	17.64%	17.85%

江戸川区の要介護認定率

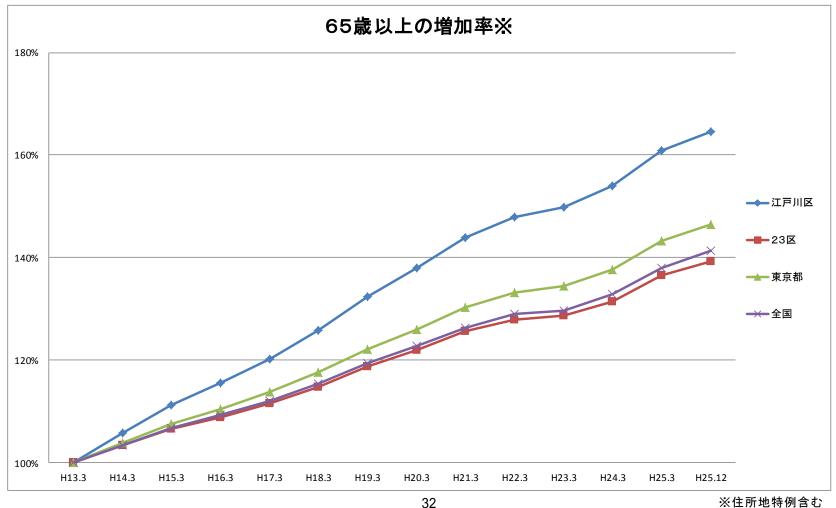
要介護度は高齢化に伴って年々上昇している。

65~74歳は、介護保険制度開始時(2000年)では3.2%だったものが2013年には4.7%に75歳以上は、同様に19.9%から27.1%になっている。



高齢化の推移・増加率

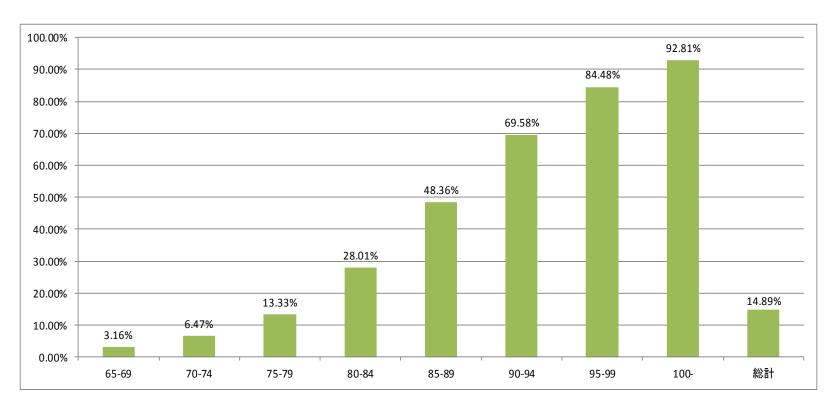
平成13年から少しずつ全国平均より高い率で増加し、平成25年12月では165%となっている。 全国平均は141%である。現在、増加率は平成13年を100とすると、江戸川区は23区より26ポ イント、都より19ポイント、全国より24ポイント高い。



※住所地特例含む

年齡区分別出現率

年齢が高くなるにつれ、認定出現率は高くなる。65-69を基準にすると、70-74は2倍、75-79は4.2倍、80-89は8.9倍、85-89は15.3倍と倍々に増えている。



(住所地特例分を除く)

年齢による認知症有病率

年 齢	65歳	70歳	75歳	80歳	85歳
有病率	1%	3%	7%	15%	24%

認知症高齢者数(全国・江戸川区)

		2002年 (平成14年)	2015年 (平成27年)	2025年 (平成37年)
全国	認知症高齢者数 (万人)	149	345	470
土田	65歳以上人口 に占める割合	6. 3%	10. 2%	12. 8%
江戸川区	認知症高齢者数 (万人)	4, 444	10, 994	16, 601
工厂川区	65歳以上人口 に占める割合	5. 1%	7. 8%	11. 1%

出典: 辻哲夫教授(超高齢社会に向けての医療介護施策の展望。「まちづくり」の視点から見た地域包括ケア)

高齢化する障害者

1. 愛の手帳所持者数の推移

(各年10月1日現在)

年 齢	層	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
0~64歳	人数	2, 559	2, 629	2, 706	2, 825	2, 938	3, 051	3, 185	3, 399	3, 533	3, 660	3, 830
0~64成	構成比	97.2%	96.8%	96. 5%	96. 4%	96.3%	96. 2%	95.8%	95. 7%	95. 7%	95.8%	95. 5%
25-15-101-1	人数	74	88	99	107	112	120	138	154	160	162	181
65歳以上	構成比	2.8%	3. 2%	3. 5%	3.6%	3.7%	3.8%	4. 2%	4.3%	4.3%	4. 2%	4. 5%
計		2, 633	2,717	2, 805	2, 932	3, 050	3, 171	3, 323	3, 553	3, 693	3, 822	4,011

- ○65歳以上は、15年度と25年度を比較すると、107人増加している。増加率は、145%。
- ○それに対し、0~64歳は、15年度と25年度を比較すると、1,271人増加している。増加率は、49.7%。

2. 区内入所施設・グループホームの状況 (知的障害者対象)

○入所施設 1箇所。【あゆみの園:定員 36人】

○グループホーム 36箇所。【定員 175名】

定員合計 211名

介護職員の推移と見通し

介護保険制度の施行後、介護職員は増加し、10年間で倍以上となっている。 また、2025年には、介護職員は更に1.5倍以上必要とされている

	平成12年度 (2000年度)	平成24年度 (2012年度) <u>(推計値)</u>	平成27年度 (2015年度) <u>(推計値)</u>	平成37年度 (2025年度) <u>(推計値)</u>
介護職員	55万人	149万人	167~176万人 (164~172万人)	237~249万人 (218~229万人)

【出典】厚生労働省「介護サービス施設・事業所調査」、「医療・介護に係る長期推計」

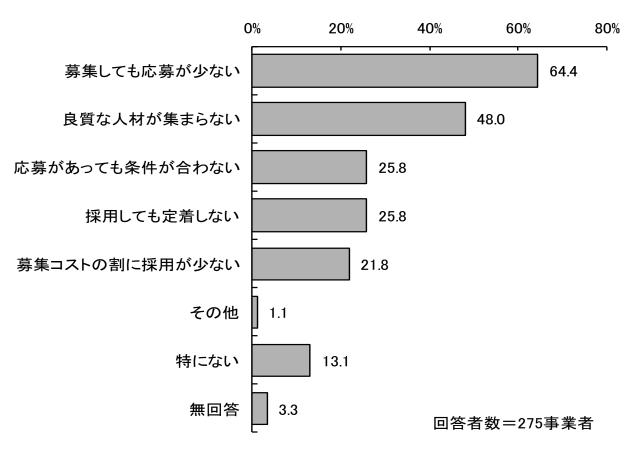
- (注1) 平成27年度・平成37年度の数値は社会保障・税一体改革におけるサービス提供体制改革を前提とした改革シナリオによる。
 - ()内は現状をそのまま将来に当てはめた現状投影シナリオによる数値。
- (注2) 2015年、2025年の推計値に幅があるのは、非常勤比率の変動を見込んでいることによるもの。

(平	⁷ 成23年10月1日	l現在)		介護保険施設			居宅サービス施設等		
	合計	常勤	非常勤	合計	常勤	非常勤	合計	常勤	非常勤
介護職員	139. 9万人	85. 1万人	54. 8万人	35. 4万人	29. 5万人	5. 9万人	104. 5万人	55. 6万人	48. 9万人
		60.8%	39.2%		83.3%	16.7%		53.2%	46.8%

【出典】厚生労働省「介護サービス施設・事務所調査」

介護事業者が人材確保で困っていること

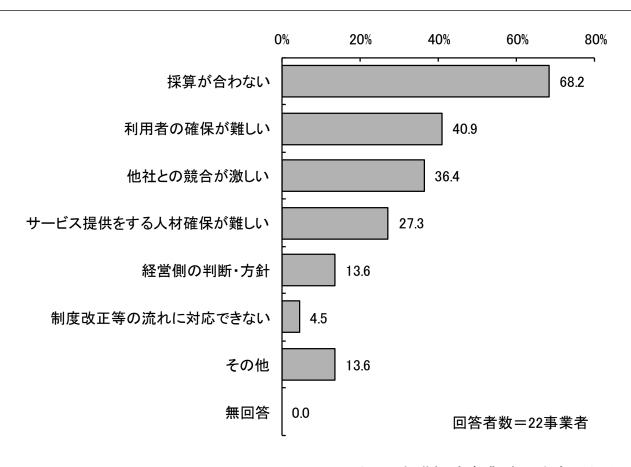
「募集しても応募が少ない」が64.4%、「良質な人材が集まらない」が48.0%、「応募があっても条件が合わない」「採用しても定着しない」が各25.8%、「募集コストの割に採用が少ない」が21.8%となっている。



出展:介護保険事業計画改定のための基礎調査(平成25年)

介護事業者が業務の縮小・撤退を考えている理由

「採算が合わない」68.2%がもっとも高く、次いで「利用者の確保が難しい」40.9%、「他社との競合が激しい」36.4%、「サービス提供をする人材確保が難しい」27.3%の順となっている。

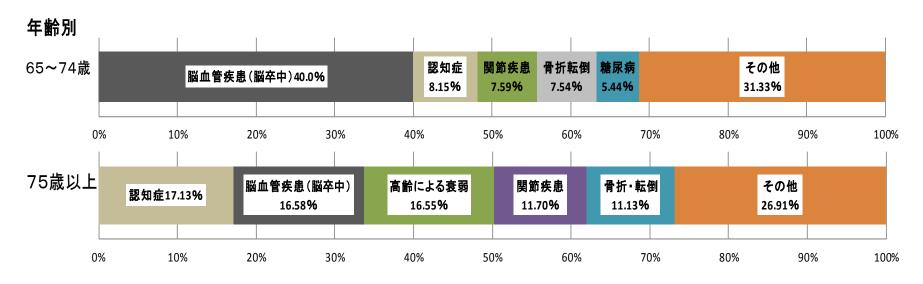


出展:介護保険事業計画改定のための基礎調査(平成25年)

介護が必要となった主な原因(全国・年齢別)

介護が必要となった主な原因としては、65歳~74歳では「脳血管疾患(脳卒中)」が最も多い。 75歳以上になると「認知症」による割合が増加している。

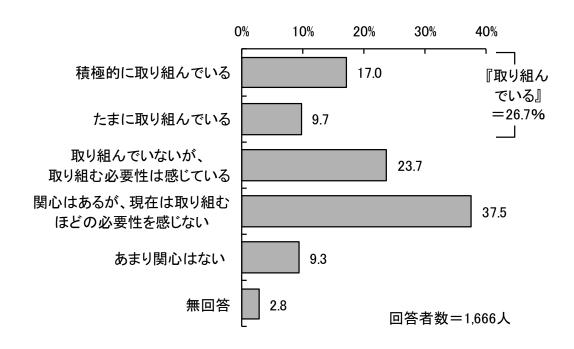
介護が必要となった主な原因 [平成22年国民生活基礎調査より]



※前期高齢者(65歳から74歳)は、脳血管疾患(脳卒中)を原因とすることが多い。 後期高齢者(75歳以上)は、高齢による衰弱や関節疾患、骨折・転倒等の運動機能低下と認知症が主な原因となることがわかる。

介護予防の取り組み

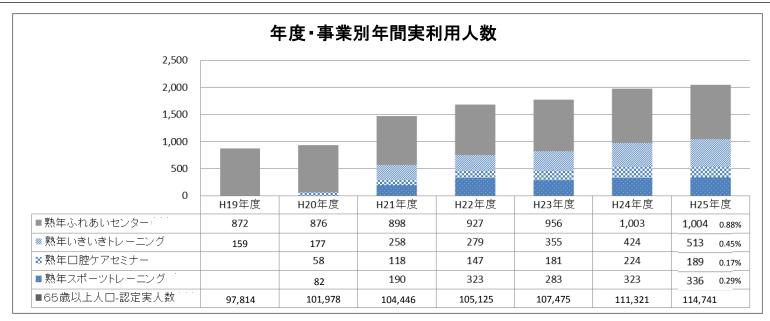
「介護予防に取り組んでいる」人は26.7%で、「取り組んでいない」は61.2%となっている。



出典:介護保険事業計画改定のための基礎調査(25年度)

介護予防のメニューと利用状況(1)

平成21年度から平成25年度までの利用人数の伸び率は、熟年いきいきトレーニング(199%)、 熟年スポーツトレーニング(177%)、熟年口腔ケアセミナー(160%)の順に高い。運動器の維持向 上に関する関心が高い。



I 熟年ふれあいセンター

65歳以上の介護認定非該当の方を対象に、ふれあいの機会づくり、生きがいづくりの場を提供し、閉じこもりを防止するとともに、要介護におちいることを予防する。

Ⅱ 熟年いきいきトレーニング

65歳以上の介護認定非該当の方で、二次予防対象者把握事業により、運動器の機能向上を図ることが必要とされた方を対象に、身体的に自立した生活を営むため、運動器の機能維持・向上を目的としたトレーニングを行う。

Ⅲ 熟年口腔ケアセミナー

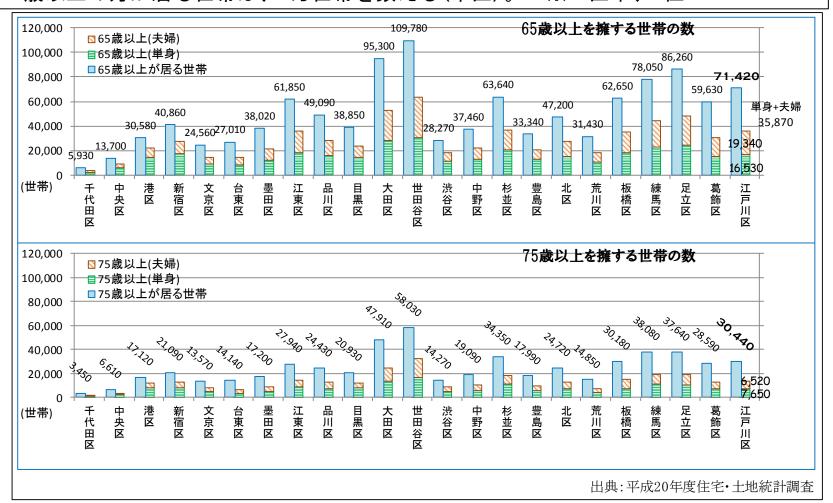
65歳以上の介護認定非該当の方で、二次予防対象者把握事業により、口腔機能向上を図ることが必要とされた方を対象に、口腔機能の維持・向上を目的に、歯科医師や歯科衛生士が講話、実技、個人相談を行う。

Ⅳ 熟年スポーツトレーニング

二次予防事業対象者並びに運動器の機能向上を図ることが必要な利用者に対して、熟年スポーツトレーニング事業を実施し、社会的交流の促進及び 心身機能の維持・向上を図る。

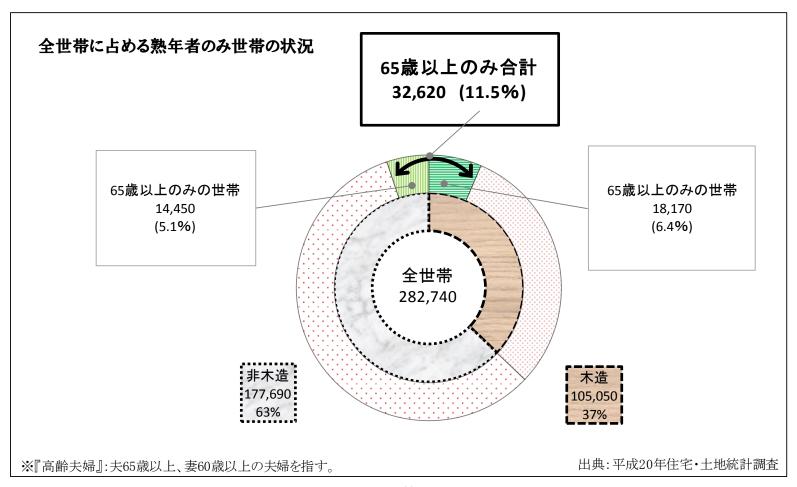
熟年者世帯の数(23区)

65歳以上の方が居る世帯は、7万世帯を数える(本区)。 ※23区中、5位 75歳以上の方が居る世帯は、3万世帯を数える(本区)。 ※23区中、6位



熟年者世帯の数(江戸川区)

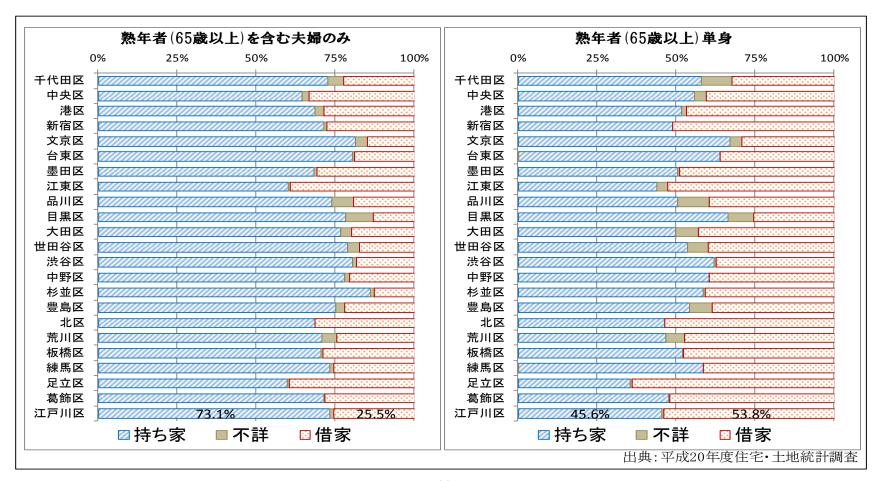
全世帯(約28万世帯)の約11.5%(約3万2千世帯)は65歳以上で構成されている。約3万2千世帯の内訳は、木造戸建の1万4千世帯、非木造共同住宅の1万3千世帯である。



熟年者の持ち家・借家の選択(23区)

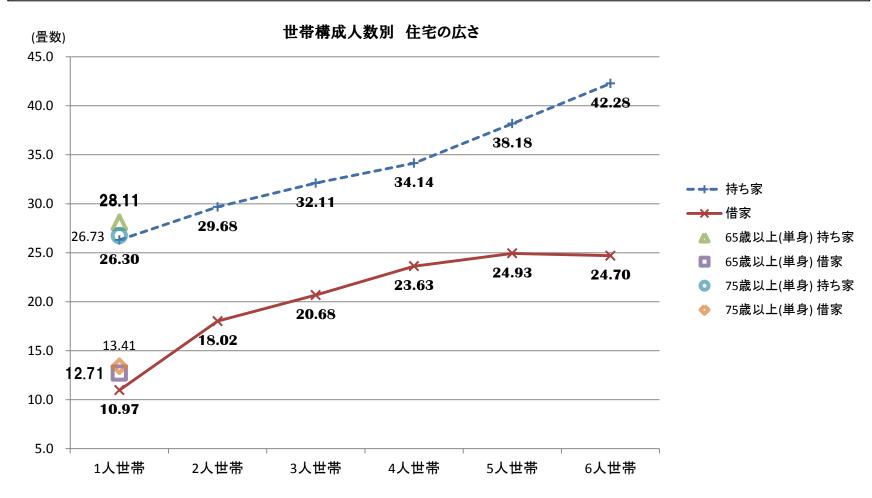
熟年(65歳以上)単身世帯(16,530世帯)は、半数以上が借家住まいを選択。 熟年者を含む以夫婦のみ世帯(19,510世帯)では、約3/4が持ち家住まいを選択。 ※23区中、12位

※23区中、2位



世帯人数別 住まいの広さ(江戸川区)

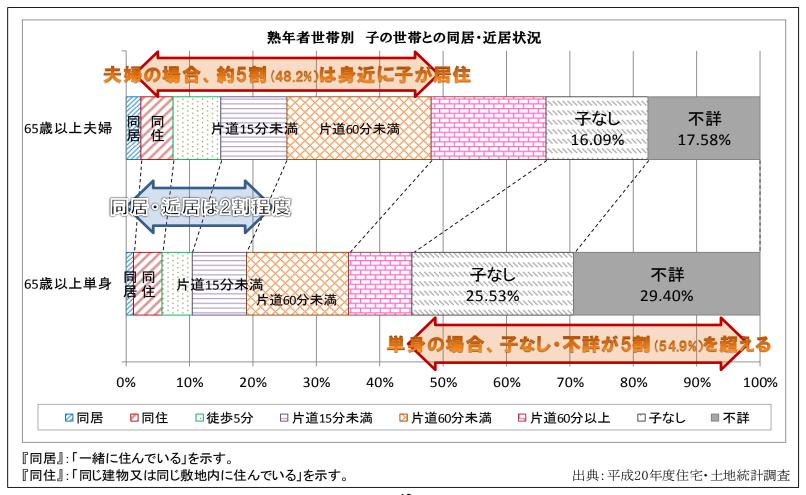
持ち家は、借家よりも大幅に広い。 持ち家の単身者は、借家住まいの大家族よりも広い空間に暮らしている。



出典: 平成20年度住宅•土地統計調査

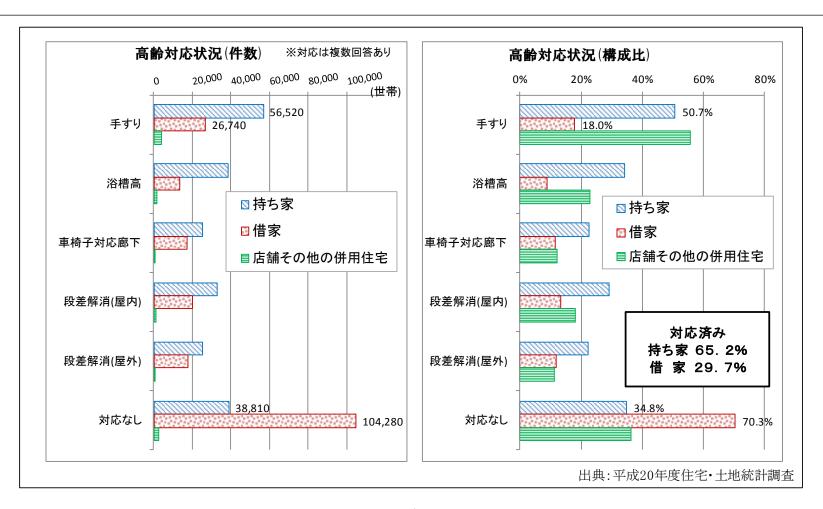
熟年者の子との同居・近居の状況 (江戸川区)

熟年者世帯の2割程度は、子の世帯と同居するか、近くに住んでいる。 一方、単身者の場合、過半において、頼れる子が存在しない。



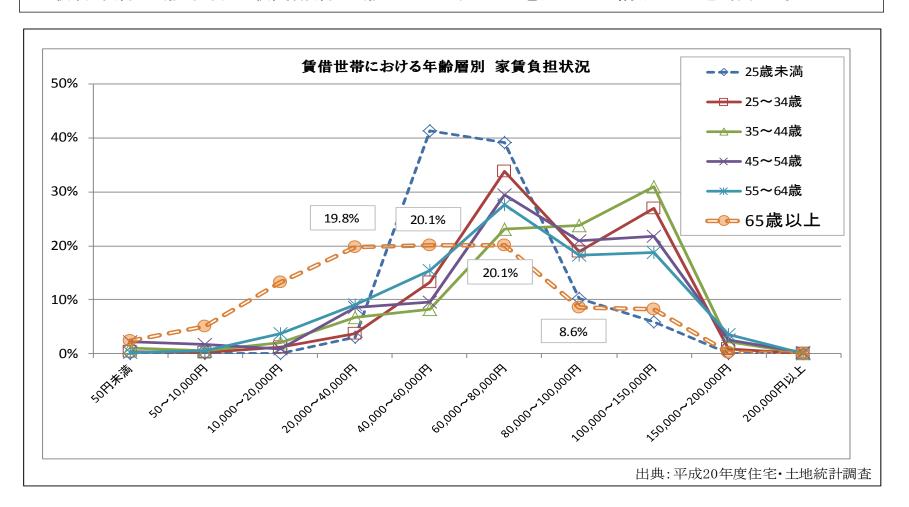
住まいのバリアフリー化の実施状況(江戸川区)

借家の高齢対応は遅れている。比率にして、持家の半分程度である。持家、借家ともに、手 すりへの対応が最も多い。



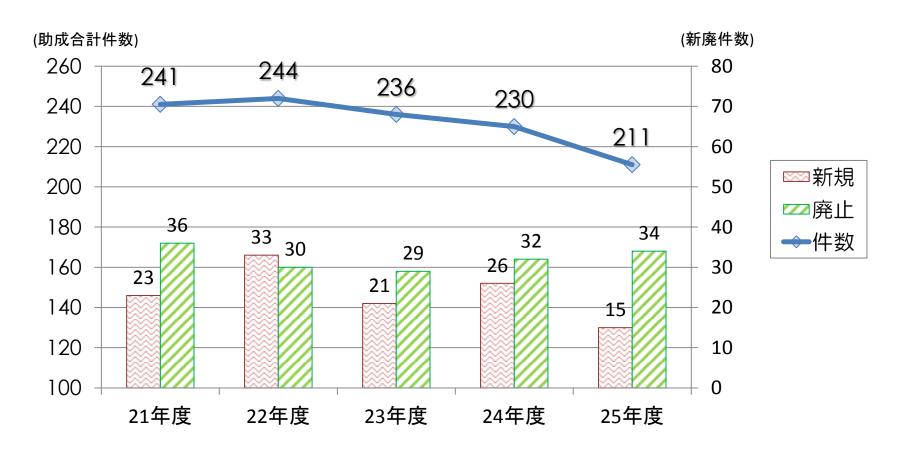
年齡層別 家賃負担水準(江戸川区)

賃貸に住む熟年者(65歳以上)の家賃水準は、4万円から6万円を中心に分布する。 最若年層(25歳未満)と最高齢層(65歳以上)は、8万円を超えると構成比が急落する。



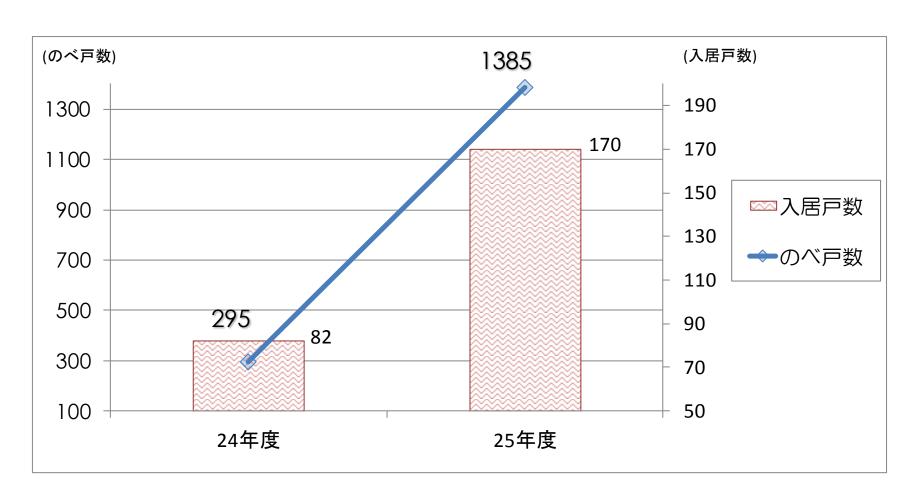
民間賃貸住宅家賃等助成 件数の推移

過去5年間の推移をみると、概ね減少傾向である。(廃止が新規を上回る。) (※)民間賃貸住宅家賃助成…賃貸に住まう65歳以上の熟年者が住宅の取り壊しに遭った際、 転居先の家賃との差額を補助する。収入要件(都住に準じる)あり



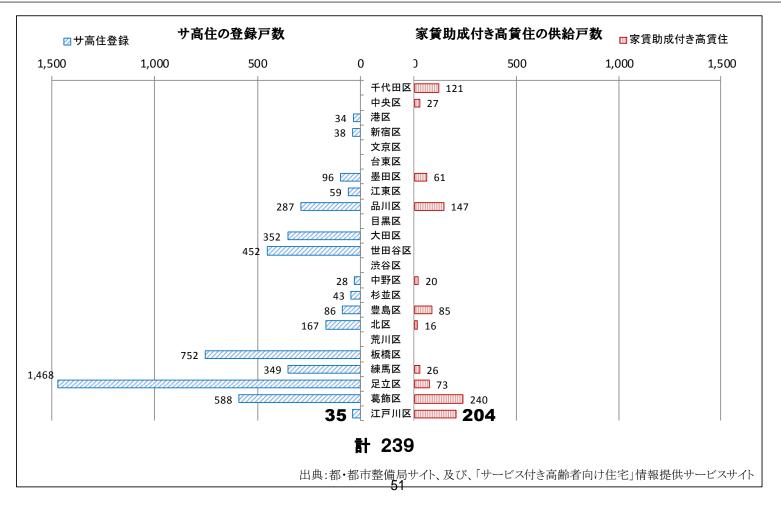
高齢者向け賃貸住宅家賃助成 戸数の推移

助成制度の開始以降、広報等のPRにより入居が進んでいる。



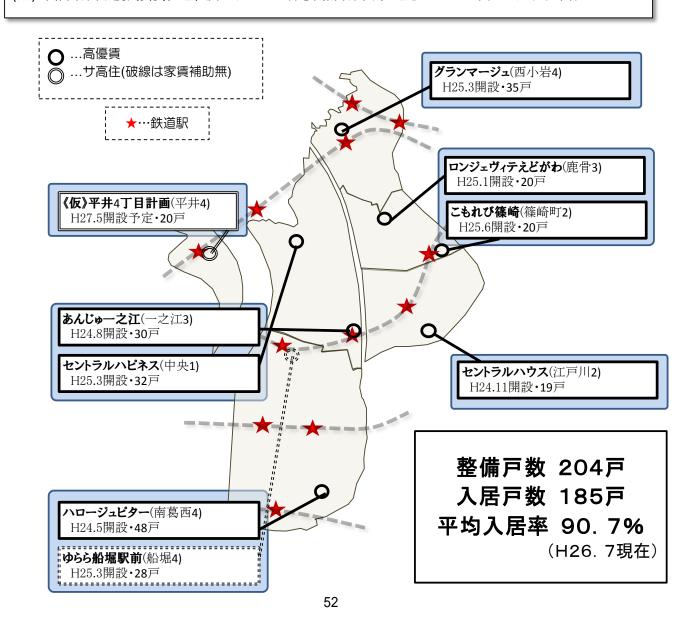
高齢者向け住宅の整備(23区)

家賃補助のある高齢者向け賃貸住宅について、本区は特別区部全体(1,020戸)の2割(204戸)を供給する。また、サービス付き高齢者向け住宅(=サ高住)の登録(家賃補助の有無を問わない)戸数は少ない。(※高齢者向け賃貸住宅…「高齢者向け優良賃貸住宅」並びに「サービス付き高齢者向け住宅」を総称する、本区における呼称。「高賃住」と略す。)



本区における「高齢者向け賃貸住宅(※)」整備状況図

(※)...高齢者向け優良賃貸住宅、及びサービス付き高齢者向け住宅をまとめた本区における呼称

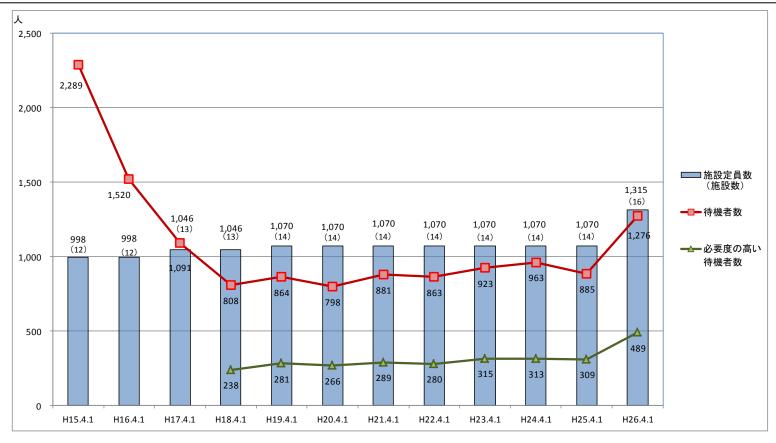


住宅改造の件数

年度	件数	金額
平成23年度	149件	56, 480, 715円
平成24年度	156件	62, 983, 357円
平成25年度	167件	41,750,774円
平成26年度	60件	12, 443, 105円

特別養護老人ホーム定員数および待機者数

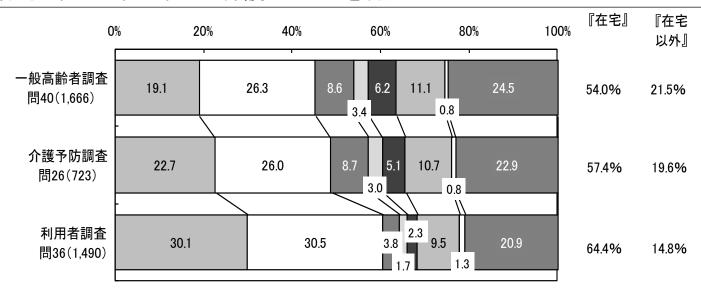
平成15年度に入所申込については1年更新としたこと、運営基準の改正により介護の必要度等による優先入所の方針に変更されたことにより、待機者数が大幅に減った。平成25年度は新規2施設が開設したことから、待機者数は増に転じた。



(注意) 施設数には、地域密着型特養を含む。

介護を受けたい場所(1)

「在宅」を希望する割合は5割を超えている。 (元気な高齢者 54% 虚弱高齢者 57.4% 要介護高齢者64.4%) 高齢者向け住宅に住み替えて介護サービスを利用したい人は8.6%

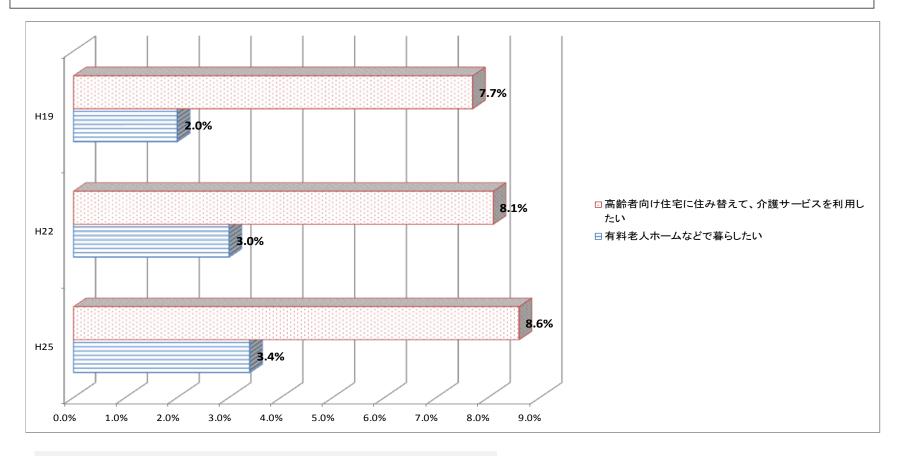


- □主に家族の介護を受けながら、自宅(又は子どもの家)で暮らしたい
- ロ主に介護サービスを利用して、自宅(又は子どもの家)で暮らしたい
- ■高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい
- □有料老人ホームなどで暮らしたい
- ■数人で暮らせる、家庭的な介護付きホーム(施設)で暮らしたい
- □介護保険施設(特別養護老人ホームなど)に入りたい
- ロその他
- ■わからない・無回答

出展:介護保険事業計画改定のための基礎調査(平成25年)

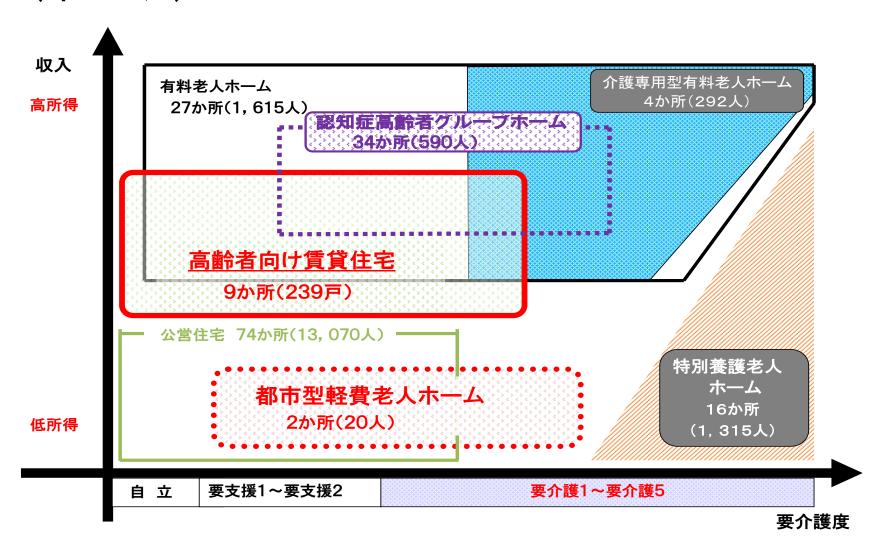
介護を受けたい場所(2) 住み替え意向

「高齢者向け住宅に住み替えて、介護サービスを利用したい」、「有料老人ホームなどで暮らしたい」ともに増加している。



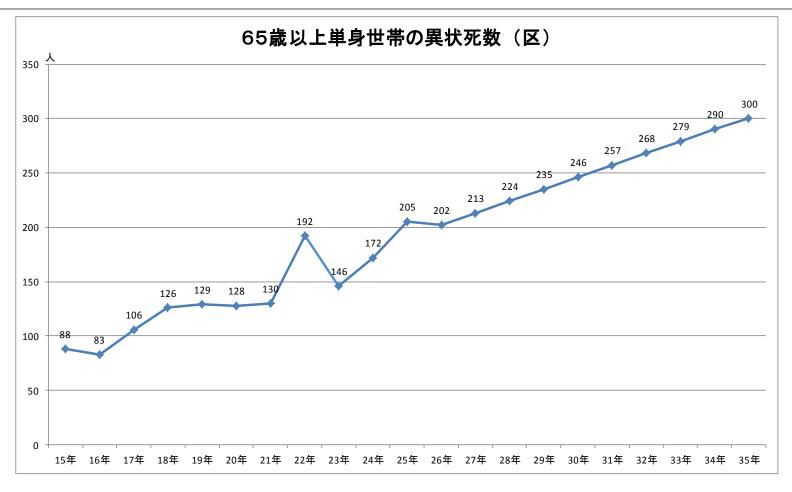
江戸川区 介護保険事業計画及び熟年しあわせ計画改定のための基礎調査 報告書 ※65歳以上の要介護認定を受けていない区民

「高齢者向け住居・施設」と「収入・介護度」との関係(イメージ)



孤独死の状況

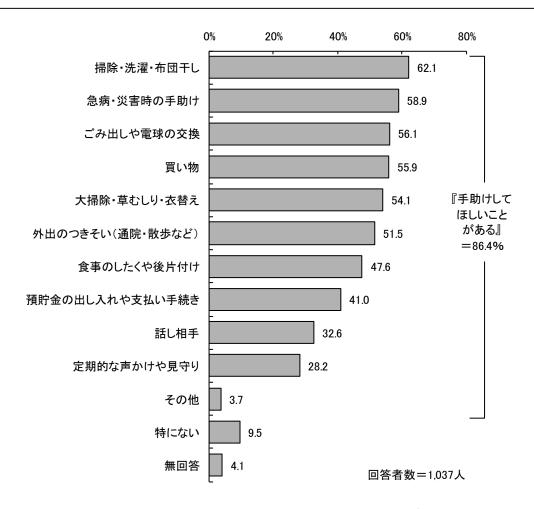
25年度: 異状死者205人 単身世帯の増加とともに異状死者数も増加すると思われる。



※異状死:死因の明かでない急性死や事故等により自宅で亡くなった事例であり、「孤独死」はこの「異状死」に含まれるとされる。

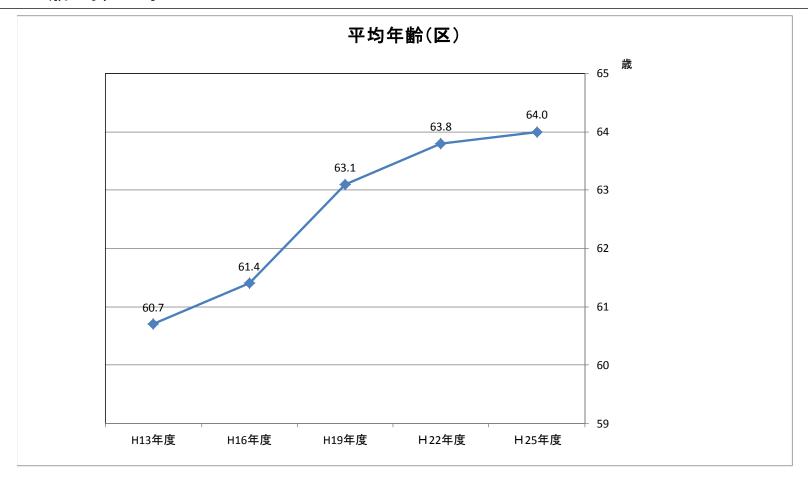
熟年者が日常生活で困っていること

「掃除・洗濯・布団干し」62.1%、次いで「急病・災害時の手助け」「ごみ出しや電球の取り換え」 「買い物」などの順になっている。



介護者の平均年齢(江戸川区)

介護者の平均年齢は平成13年度では60.7歳だったが、平成25年度では64.0歳となり、12年間で3.3歳上昇した。

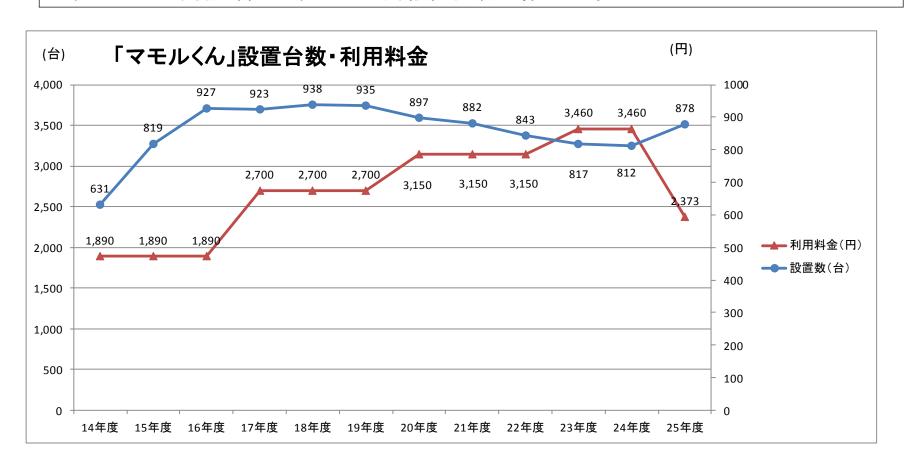


資料 区:江戸川区介護保険事業計画及び熟年しあわせ計画改定のための基礎調査報告書

見守り・支えあいの状況

平成25年度:設置台数878台

ここ数年は利用料金の高騰とともに設置台数が減少していたが、平成25年度に減額要件を緩和したことと、利用料金の低下により、設置台数が増加した。

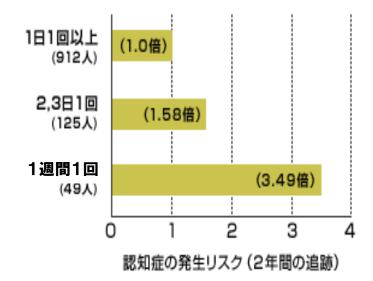


外出機会と健康の関係

外出することは、健康予防、認知症予防にも効果あり!



● 外出頻度と認知症の発生リスク



新潟県Y市で65歳以上の高齢者を対象に2001年から2年間追跡調査した結果

※両グラフとも、もともとの健康状態や社会的役割の差による影響を除いて比較

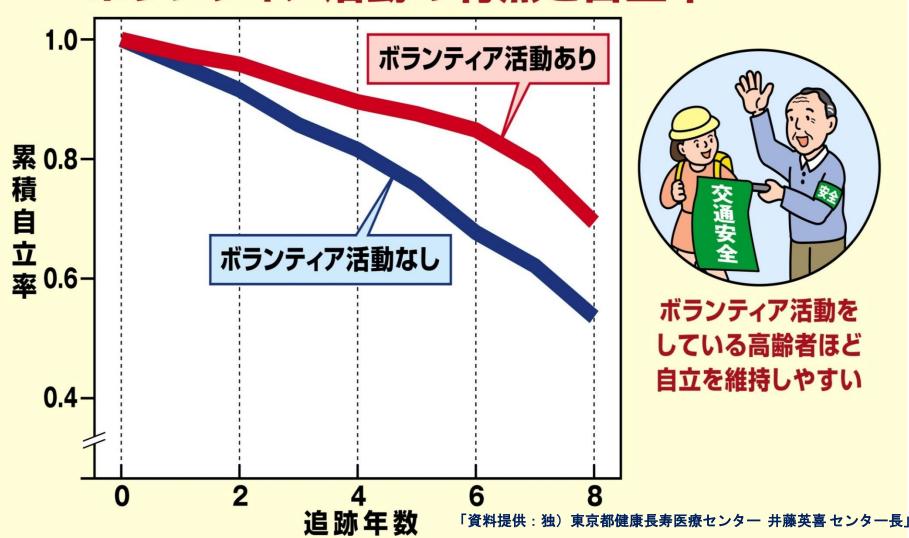
(資料) 財団法人 東京都高齢者研究・福祉振興財団 東京都老人総合研究所[第93・95回老年会公開講座 第三のキーワード!]より

「資料提供:独)東京都健康長寿医療センター 井藤英喜 センター長」

62

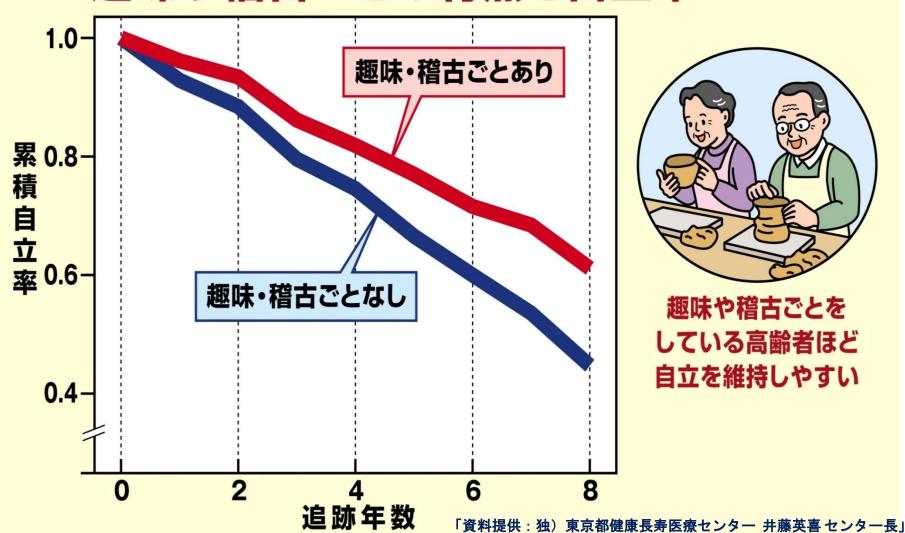
社会参加と健康寿命(TMIG-LISA)

ボランティア活動の有無と自立率



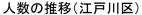
社会参加と健康寿命(TMIG-LISA)

趣味や稽古ごとの有無と自立率

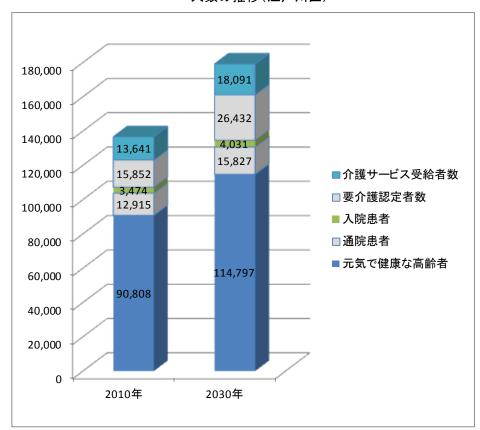


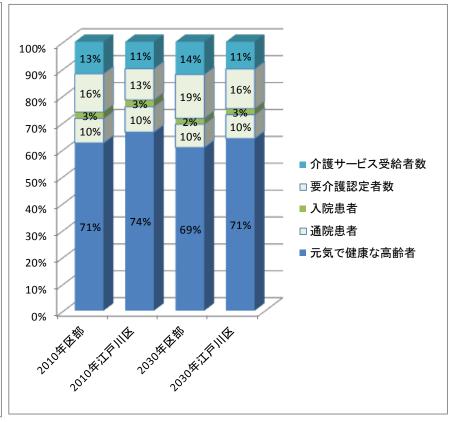
高齢者の状態の変化

高齢者人口は増加するが、元気な高齢者の割合は70%程度と今後も変化がない。



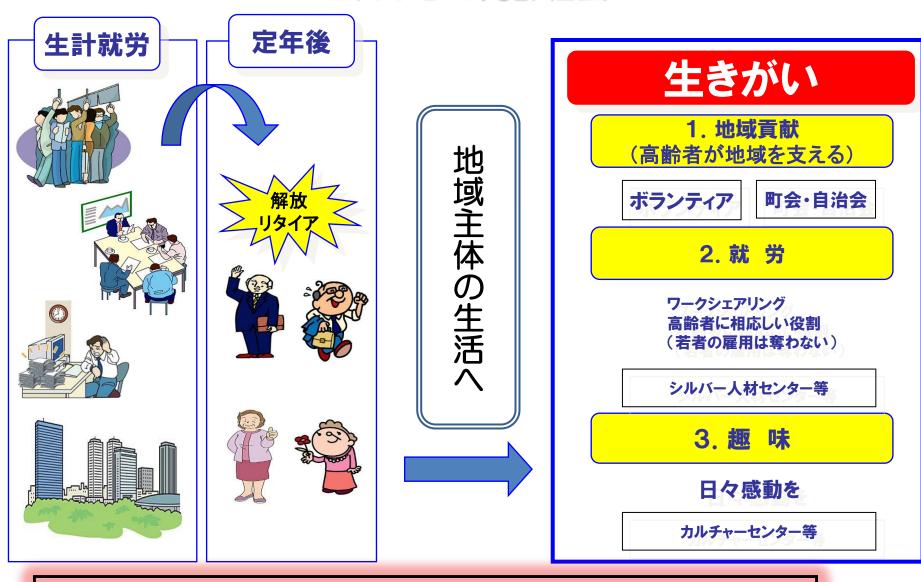
構成比の変化(区部と江戸川区)





2010年国勢調査「介護保険事業状況報告(平成22年9月月報)」「平成20年 患者調査」厚生労働省より

これからの高齢社会



1に運動、2に食事 ⇒ 健康寿命が基礎となる。

「すくすくスクール」に関わっている熟年者のボランティア

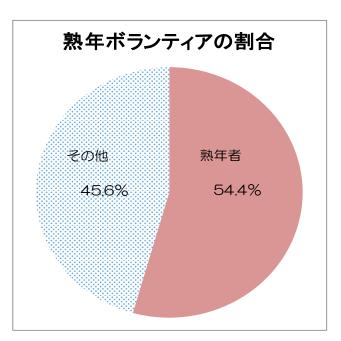
すくすくスクールのボランティアの中で、熟年者は54.4%を占めている。

○関わっている「すくすくスクール」 全すくすくスクール(73校)

熟年者のボランティアの内訳							
サポート センター	町会・自治会	個人	くすのき クラブ	グループ 団体	更生保護 女性会	将棋連盟	

【内容】

- ·囲碁将棋
 - ・卓球
 - ·日本舞踊
 - ・茶道
 - ・フラダンス
 - ·小物制作
 - ・けん玉
 - 見守り



※平成25年10月アンケート調査より

江戸川総合人生大学 卒業生・在校生でつくるグループ一覧

江戸川総合人生大学の卒業生が、ボランティアグループグループを立ち上げ地域で活動を 行っている。

【江戸川まちづくり学科】

平成26年7月8日現在

	名称	活動 開始日	構成	内容・目的・実績
1	すきま南風	H18.5	1期生9名	フラワーロード商店街の空店舗を活用しお休み処を開設。
2	花ステーション研究会	H19.7	1·2期生	花をきっかけに地域のコミュニケーションづくりを推進。花好きな方などに地域を結ぶ「駅長」 になってもらい、地域のつながり作りを実施
3	葛西まち文化研究会	H18.9	2期生6名	葛西地域を中心に質の良い文化活動を定着させるため、イベントや交流会などを実施。
4	江戸川グリーングリーン	H18.10	2期生10名	鹿本幼稚園の活動サポートと南小岩南児童遊園の花の植付けと清掃等に従事
5	モニュメント6	H18.11	2期生9名	区内のモニュメントの清掃、調査活動を展開。
6	夢ぽすと	H20.7	3期生13名	多世代が気楽に立ち寄り、交流する「みんなの居場所」づくり。月1回実施。
7	江戸川ガイドグループ	H20.5	3期生20名	子どもやお年寄り、精神障害者等、あまり外に出る機会のない人を対象に、散歩しながら世間話をし、楽しく過ごす時間を持ってもらう
8	ほっとけない	H21.4	1期生3名	様々な「ほっとけない」ことをお題にイベントを行う。大学の魅力紹介や防災についてなど、各 種団体と協力して実施
9	虹の会いきいきクラブ	H22.10	5期生10名	健康体操を通じて、生き生きとした健康づくりと親睦を深めるとともに、地域住民との交流を図る。 グリーンパレスにて実施
10	手作りサークル:ポケット	H22.2	5期生8名	「手作り」を通じて交流を図る。今までに小学校や子ども未来館などで、ペットボトルを利用した風車、エコバッグ、フェルトづくりなどを行う。
11	江戸川総合人生大学朗読会	H19.1	1~5期生10名	タワーホール船堀にて朗読会を実施し、安らぎの場を提供
12	新川げんき会	H23.9	7期生13名	新川の清掃活動や「新川あさ市」を実施し、楽しく元気な川辺の環境づくりを考える
13	ひまわりリング	H24.5	6期生8名	自転車事故を一件でも減らすことを目標に、熟年者や幼児等を対象に『自転車のルールとマナー』を寸劇や紙芝居で普及活動を実施
14	<えどがわのもり>プロジェクト	H24		区内に子どもたちが自由に遊べる≪もり≫を作る

【国際コミュニティ学科】

	名 称	活動開始 日	構成	内容・目的・実績
15	江戸川アリスの会	H17.7	1期生+地域の方18名	アジア留学生への支援及び交流活動。日本文化の紹介、留学生への書籍贈呈、文通等を実施。
16	パソコンサポートの会	H17.9	1期生+各学期生	人生大学の学生や卒業生・関係者の皆さんが、学生向けにパソコン活用法の講習会を月1回実施。
17	お国自慢料理の会	H17.12	1期生3名	清新町コミ館で一般区民を対象にして「外国の郷土料理」を通した異文化交流を実施。
18	音の会	H18.5	1期生10名	軽度障がい者の利用施設、小学校、ホーム等を訪問し、琴など文化紹介活動を行っている。
19	にほんご出前クラブ	H18.7	1·2期生10名	要請のあった区立小・中学校で、日本語が不自由な児童・生徒への日本語指導。
20	えどがわルネッサンス	H19.3	2期生7名	電子国土地図WEBシステムを利用して区民参加型のまちづくりの仕組みを作っていく。
21	あいうえおの会	H19.9	3期生10名	日本語のサポート活動。インド人学校の授業補助活動を中心に、日本語教室の開催を目指す。
22	日本語教え隊	H20.1	3期生15名	外国から区内小中学校に編入した子どもに授業の一環として日本語指導を行う。
23	チームレインボー	H20.1	4期生8名	外国籍の人達に江戸川区の良さを更に理解してもらうため、夜間学級に通う生徒に対し支援 することで絆を深め、共生していくことを目的に活動。
24	東京食育塾	H20.4	4期生	食材を無駄にしない料理づくりを通じてエコな食生活を学んでもらう。また、母と子、中高生を対象とした食育料理教室を実施する。
25	えどがわインドダンサーズ	H20.7	3期生8人	各種イベントに参加したり施設を慰問してインド舞踊を披露し、国際交流や多文化共生を進める活動をする。
26	たまて箱	H20.9	4期生7名+他数名	鰌すくい踊りなどの日本伝統文化を紹介し、観賞・体験を通して楽しく理解してもらう活動。他 グループとコラボし、双方の活動効果増進も狙う。
27	F&Sの会	H20.10	4期生12名	主にインド人に対するボランティア。イベントのお手伝いや日本語ボランティア、区内めぐり等 の活動を実施。
28	あなたと話したい	H20.10	4期生10名+地域の方	中国語を学びながら、多くの中国人の方と交流を進める活動。
29	江戸川区室内合奏団	H20.10		室内楽演奏を通じて、保育所・幼稚園・小学校・病院・高齢者施設等の利用者との交流を図り、音楽の楽しみを共有する

30	日本語サロンedobata (国際江戸端会議)	H21.3	2期·4期生+地域の方 29名	定住外国人の支援と交流を目的に活動。3月からは「日本語サロン」を毎土曜日開催。その他、PRや親睦を深めるためのイベントを年数回開催。
31	国際交流エドガワ	H21.6	4期生13名	南葛西第二小学校の児童たちと、諸外国の留学生や区内のインターナショナルスクール、短期留学生の子ども達との交流を進める活動をする。
32	小松川さくら交流会	H21.	5期生7名ほか	中国の方々と日本語や中国語を助けあいながら学ぶ。また、それぞれの歴史や文化・習慣などについての情報交換を通じて国際交流を進める活動を実施
33	江戸川国際交流 びわの会	H22.6	4期生24名	地域の外国人との「共生」を合言葉に、快適で安全な生活ができる地域づくりを目指して、交流を中心に活動。会のHP「外国人応援隊」を開設。
34	歌声広場・喫茶@ミール	H23	6期生30名	歌の好きな人が自由に集まって、青春時代に戻り、楽しい歌を力いっぱい歌います。
35	アクティブライフえどがわ	H23.7		健康のための行事(ノルディックウォーキング)・文化行事の開催や、区民の交流促進のための高齢者のサロン開催、在住外国人との交流の場づくりを実施
36	ドリームサロン江戸川	H24.5		江戸川区内の外国人に気楽な集いの場(サロン)の実施
37	手作りの会COSMOS	H25.10		手作り品を製作しその販売収益をアジアの学習支援をしている団体に寄付

【子ども支援学科】

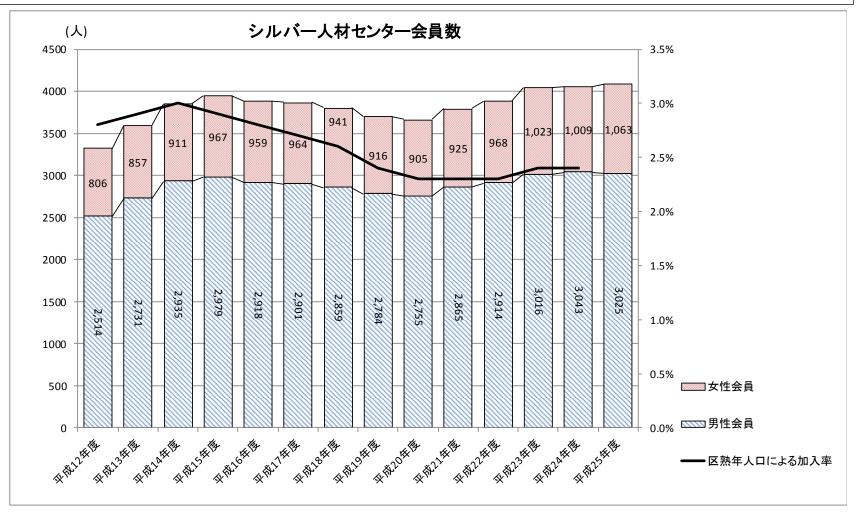
	名称	活動開始 日	構 成	内容・目的・実績
38	スクールサポーターゆうほ	H17.10	1·2期生	主に二之江第二小でスクールボランティア(学習補助)を実施。
39	どんぐり	H18.10	2期生	身近な材料で子ども達と一緒に科学実験を行い、理科の楽しさを体験してもらう教室を開催。
40	劇団5期	H21.8	15日年172	手遊び歌や読み聞かせ、おもしろ工作を乳幼児親子や小学生と一緒に楽しみながら活動。 参加者とのコミュニケーションを大事にしています。
41	ころくかい	H23.8	16日本772	健康サポートセンター子育で広場のお手伝いや、すくすくスクールの遊びの指導、学校応援 団の学習支援や安全見守り活動などをしています。
42	鹿本小教育ボランティア	H20.4	//	鹿本小の子どもたちの授業を支援し、「解った」と言える子が一人でも多くなることを目指しています。
43	NPO法人 江戸川・地域共生を考える会	H23.6		富山型の理念(赤ちゃんからお年寄りまで、障がいがあっても無くても一つ屋根の下ですごす)に基づいたディサービスの実施

【介護·福祉学科】

	名 称	活動開始 日	構 成	内容・目的・実績
44	小岩ほほえみの会	H17.12	1期生+地域の方	高齢者との会食を中心とするふれあい事業を小岩区民館を拠点に、地域住民の参加をえながら実施。
45	葛西ほほえみの会	H18.4	1期生+地域の方18名	高齢者との会食を中心とするふれあい事業を葛西区民館を拠点に実施。
46	歌声談話室	H18.10	2期生+地域の方16名	高齢者施設を訪問し、利用者の方に、歌、朗読、会話を楽しんでもらう活動。
47	杜の家	H20.10	3期生7名	介護予防をめざす葛西の寄合所。新感覚の折紙や体操、ゲーム等を通じて、頭や体を使いながら仲間づくりを進める。毎月第1・3水曜に開催。
48	うきた 芙蓉の会	H21.4	4期生9名	地域の中で交流の機会が少ない高齢者やひとり暮らしの方々を対象に、趣味や健康増進を 図る活動を行い、介護予防につなげる。
49	知恵のいずみ	H23.4	5期生	地域の中でのミニデイサービスや介護施設を訪問し、歌や体操、手遊びなどを楽しんでもらう 活動。
50	しにあ・はんど・しにあ	H21	4期生	老いの暮らしに伴う疑問や課題に取り組むために、学習会、施設見学会、活動計画検討研 究会を行っています。
51	江戸川みまもり隊	H23.7	6·7期生20名	一人暮らしの高齢者が住み慣れた地域で安心した生活ができるように各家庭を訪問し、安否確認などの見守り活動を行っています。
52	フリージア	H23.4	6期生8名	不定期で特養などの施設にて施設の方と一緒に童謡、小学唱歌、懐かしい歌等を歌って楽し いひと時や場を提供
53	テイクテン江戸川	H24.10	7期生5名	東日本大震災後の避難所支援とテイクテン活動(いつまでも元気は10個の食品と10分の体操を2~3回)の実施
54	男の台所	H24.5		定年退職後の男性の引きこもり、孤立防止を目的に料理を作り食事をする場を提供
55	笑顔お届け隊	H24		各種介護・福祉施設を訪問しハンドトリートメント・健康体操・南京玉すだれなどを通じ入所者 を元気づける活動を実施

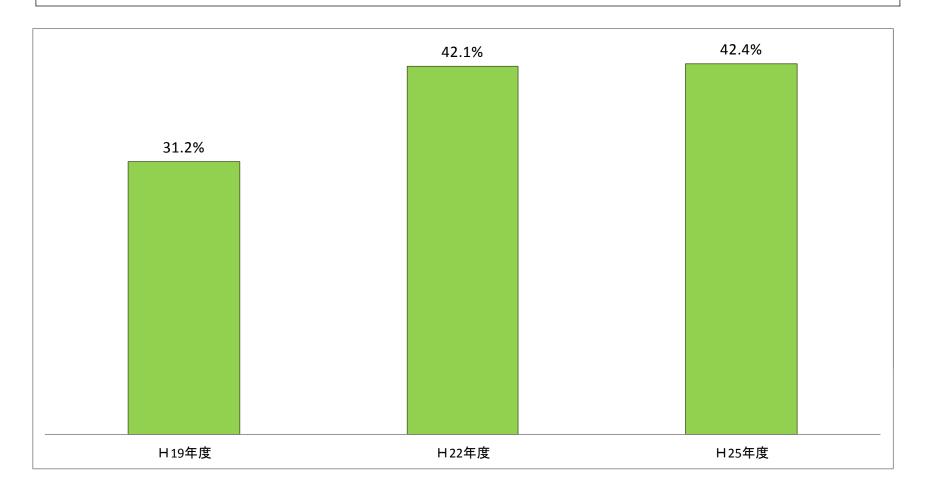
シルバー人材センターの状況(1)(江戸川区)

会員数については、全国的には減少傾向にあるものの、本区シルバー人材センターにおいて は緩やかに増加傾向にある。



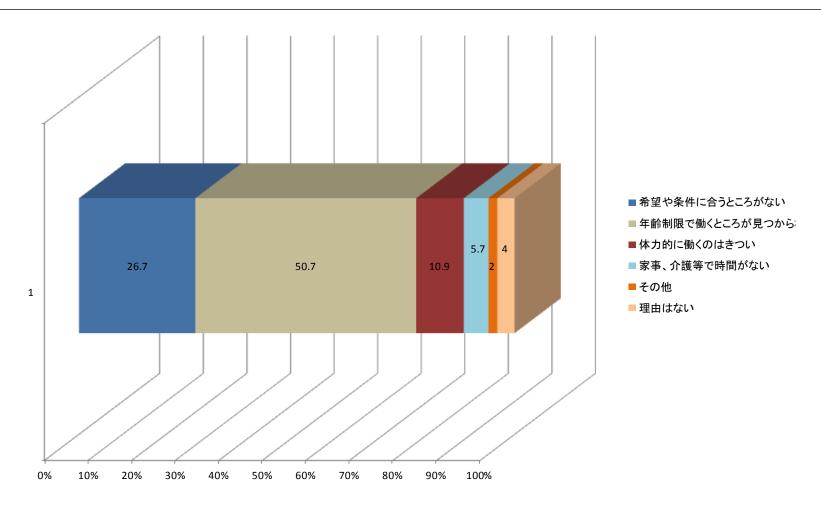
介護認定を受けていない一般高齢者の就労への意欲 (江戸川区)

『仕事をしたい』と回答している人は4割を超えており、やや増えている。



就業意向はあるが就業していない理由

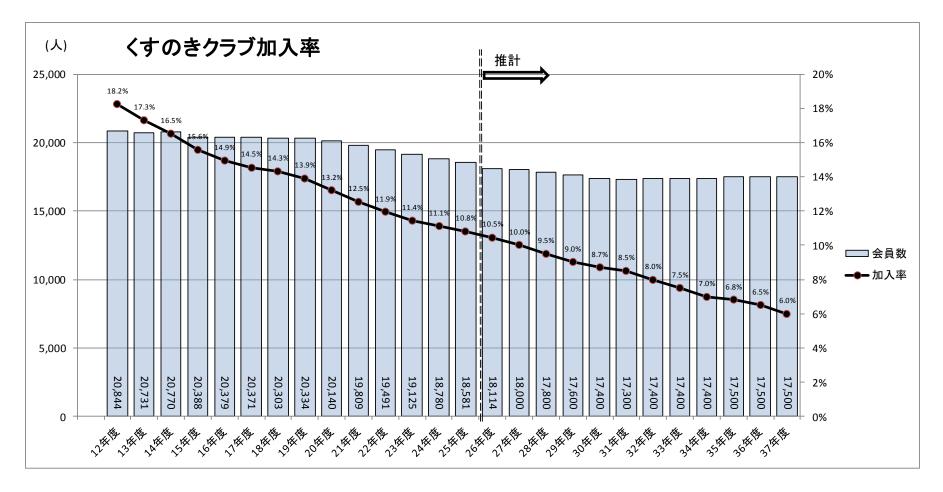
熟年者の77.4%が年齢制限、希望・条件が合わず、就業していない。



出典:22年度東京都福祉保健基礎調査「高齢者の生活実態」より作成

くすのきクラブ加入率・リズム運動参加率(1)

会員数は、平成10年をピークに下降しており、加入率は昭和56年以降、下降している。団塊 世代が70代後半を迎えるまで減少傾向が続くと予想される。

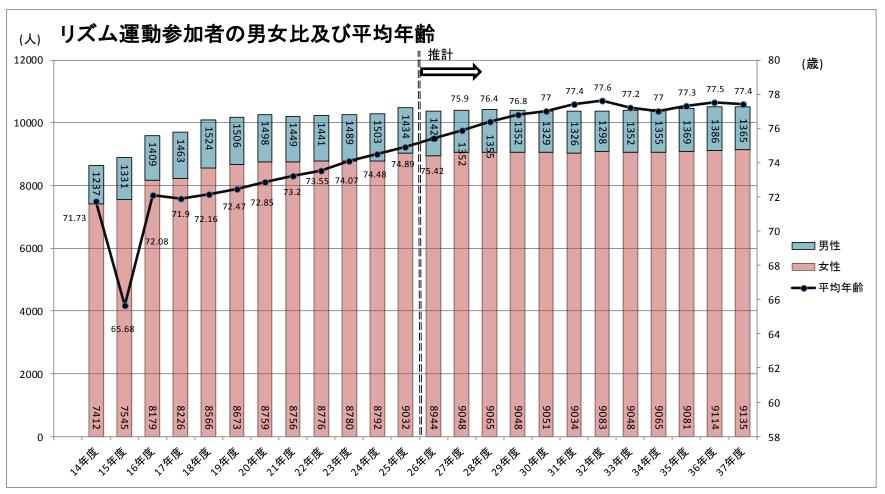


※平成26年度以降は推計

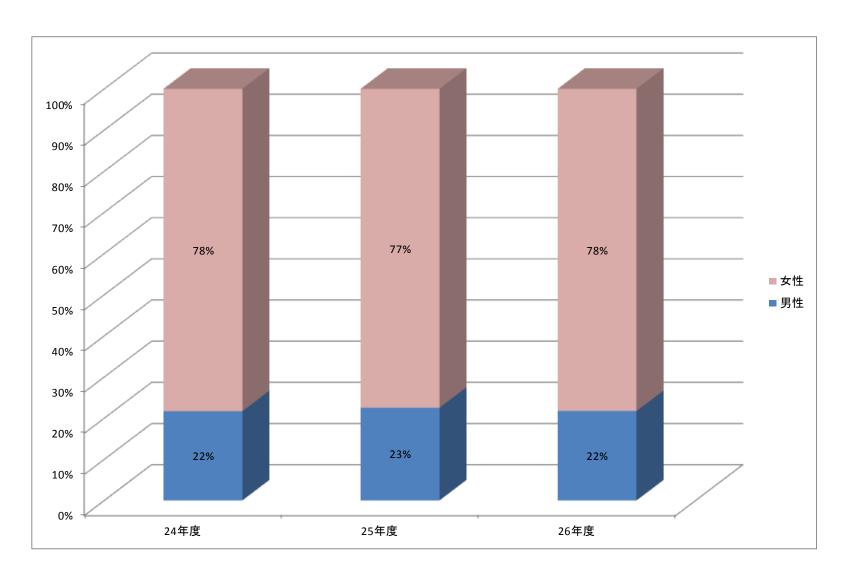
※基準日は各年度4月1日(平成23年度は7月1日)

くすのきクラブ加入率・リズム運動参加率(2)

男女比は男性15%、女性85%程度の割合で推移している。平均年齢の推移は、くすのきクラブと類似。ただし、参加者は軽運動が可能な熟年者のため、くすのきクラブの平均年齢を下回る。



くすのきカルチャーセンター(正規教室)男女比



〔サークル団体登録数の内訳〕※網掛けは全額免除

地域施設におけるサークル等コミュニティ活動の現状

○ サークル登録数 (平成25年度末現在)<u>5,039団体</u>

うち、熟年者サークル団体数

2, 341団体(47%)

○ 新規登録団体の活動内容(傾向)

- ・熟年者団体では、フラダンス、社交ダンス、卓球、健康体操が増加傾向
- ・少年団体では、ヒップホップダンス、フラダンスが増加傾向
- ・その他では育児サークルの登録が増えている
- ・都営新宿線沿線の施設でインド人のサークル(語学、歌、踊り)登録がある

青年団体 414 (8%) 少年団体 829 (16%) 文化活動 団体 1,346(27%)

○ 地域施設の利用傾向

- ・ダンスサークルや楽器演奏等の活動増加に伴い、音楽室、スポーツルーム、健康スタジオ、レクホールの利用が多い
- ・ダンスやスポーツ系の活動、子どもを対象とした活動が増加傾向
- ・利用形態として個人利用が増加傾向、また1時間程度の短時間利用や区外利用者も増え始めている

○団塊の世代の状況

・プール利用など個人利用や健康マージャン、卓球、社交ダンスなどの団体利用をしているが、急激に利用者が増えているわけではない

熟年者の方々が参加できる区内の主なイベント

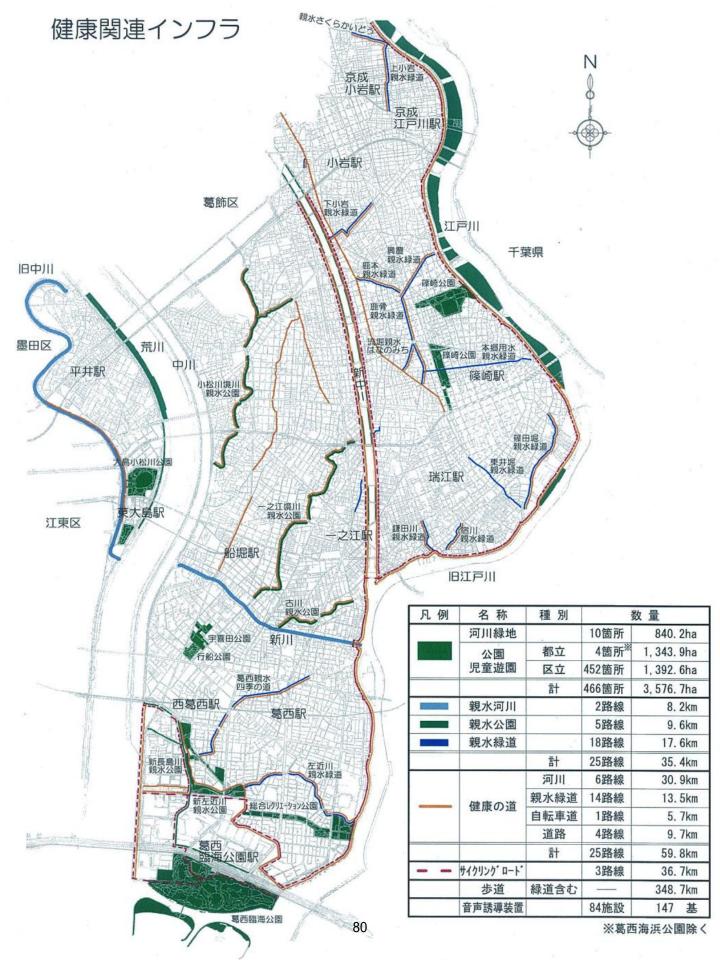
区内各地でさまざまなイベントが行われ、年間延べ350万人の区民が参加している。

①各地域でのイベント

	地域まつり		盆踊り等		運動会・スポーツ大会等		清掃・環境活動等		サークル発表会等		その他行事		合	計
	開催数	参加人数	開催数	参加人数	開催数	参加人数	開催数	参加人数	開催数	参加人数	開催数	参加人数	開催数	参加人数
区民課管内	2	205, 000	27	21, 438	6	9, 360	4	5, 568	2	3, 200	3	2, 250	44	246, 816
小松川事務所管内	2	74, 000	19	15, 086	2	4, 783	6	7, 501	3	5, 450	5	9, 410	37	116, 230
葛西事務所管内	6	397, 000	63	50, 000	8	21, 432	8	29, 507	11	20, 896	1	1, 100	97	519, 935
小岩事務所管内	4	139, 000	34	26, 996	7	8, 300	6	9, 488	5	15, 900	1	43, 000	57	242, 684
東部事務所管内	1	68, 000	23	18, 262	7	7, 000	17	18, 021	1	7, 500	3	9, 000	52	127, 783
鹿骨事務所管内	1	40, 000	17	13, 498	7	5, 042	10	10, 036	2	2, 700	2	300	39	71, 576
숨 計	16	923, 000	183	145, 280	37	55, 917	51	80, 121	24	55, 646	15	65, 060	326	1, 325, 024

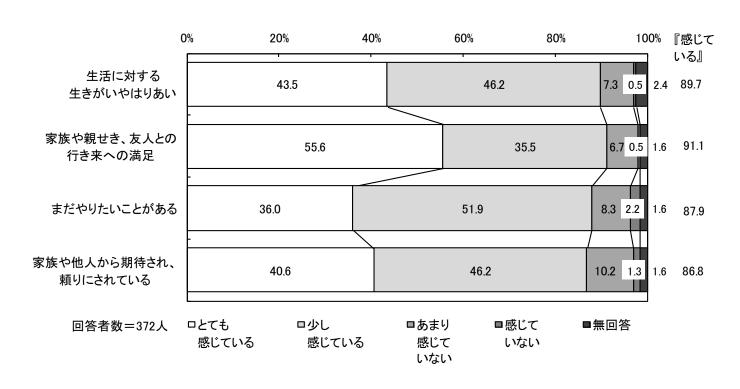
- ※区民課・各事務所で主な行事を抽出したため、抽出基準に違いあり
- ※参加人数については一部主要施策の成果から また、参加人数不明の場合は開催数のみカウント
- ※盆踊り参加人数は葛西事務所以外は不明。葛西事務所が実施した「町会活動の実態」アンケート内の盆踊りの実施状況について 63ヶ所 50,000人との回答があったため、葛西地区以外については1ヶ所平均 794人を開催数で乗じた
- ②その他、熟年者も参加できる区内の主なイベント (数字は主要施策の成果及び聞き取り)

笑顔いっぱい長寿のつどい	13,000人	22施設 (区7 特養等15) ※-部中止あり
リズム運動大会・さわやか体育祭	13,000人	リズム5,000人 さわやか体育祭8,000人
熟年文化祭	6,000人	総合文化センター
くつろぎの家まつり	9, 500人	くつろぎの家
区民まつり	550,000人	篠崎公園
花火大会	1, 390, 000人	江戸川河川敷
小岩菖蒲園まつり等えどがわ財団関係イベント	161, 661人	10イベント
地域防災訓練・防災講習会等	30, 906人	訓練170回·講習会等70回



いきがいを感じるとき(江戸川区)

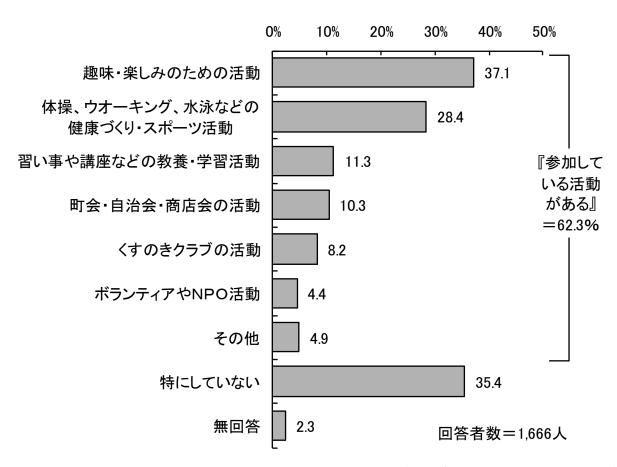
リズム運動、くすのきクラブ、シルバー人材センター、ウオーキング、カルチャーセンターに参加している人は「とても感じている」と「少し感じている」を合わせた『感じている』割合をみると、いずれも8割以上となっている。



※江戸川区介護保険事業計画及び熟年しあわせ計画改定のための基礎調査報告書

余暇•社会活動参加割合

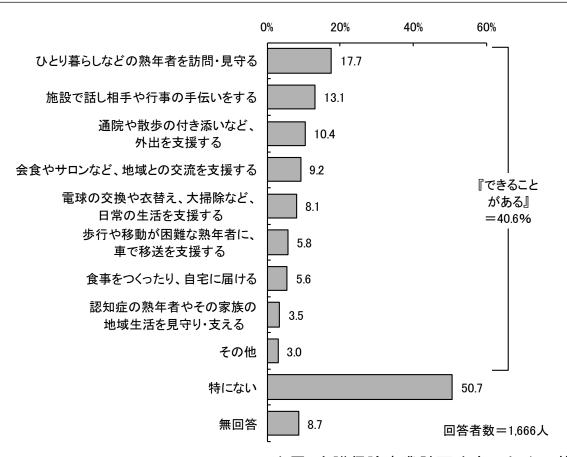
「参加している活動がある」人の割合は62.3%となっている。



出展:介護保険事業計画改定のための基礎調査(平成25年)

地域の支え手としてできること

40.6%が『できることがある』と回答している。具体的には、「ひとり暮らしなどの熟年者を訪問・見守る」・「施設で話し相手や行事の手伝いをする」・「通院や散歩の付き添いなど、外出を支援する」の順となっている。



出展:介護保険事業計画改定のための基礎調査(平成25年)